

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	コリツカ <sup>レ</sup> イ <sup>ク</sup> ホウ <sup>ジ</sup> ン ショトウ <sup>ク</sup> イ <sup>ク</sup> ホウ <sup>キョウ</sup> 公立大学法人 首都大学東京							
フリガナ大学の名称	ショトウ <sup>ク</sup> イ <sup>ク</sup> ホウ <sup>キョウ</sup> 首都大学東京 (Tokyo Metropolitan University)							
大学本部の位置	東京都八王子市南大沢一丁目1番							
大学の目的	首都大学東京は、東京都における学術の中心として、東京圏の教育機関及び研究機関等と連携して、大都市における人間社会の理想像を追求することを使命とし、広い分野の知識と深い専門の学術を教授研究するとともに、大都市の現実に立脚した教育研究の成果をあげ、豊かな人間性と独創性を備えた人材を育成し、もって都民の生活と文化の向上及び発展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	法学・政治学の専門教育により学生一人一人の能力を引き出し、公務員、法曹、研究者、企業人その他専門家として社会の発展を牽引しうる人材を育成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	法学部 [Faculty of Law] 法学科 [Department of Law] 計	年	人	年次人	人	学士（法学）	年月 第 年次 平成30年4月 第1年次	東京都八王子市 南大沢一丁目1番
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<p>&lt;学部の設置&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人文社会学部</li> <li>人間社会学科 (110) (平成29年4月届出)</li> <li>人文学科 (90) (平成29年4月届出)</li> <li>経済経営学部</li> <li>経済経営学科 (200) (平成29年4月届出)</li> <li>理学部</li> <li>数理科学科 (45) (平成29年4月届出)</li> <li>物理学科 (47) (平成29年4月届出)</li> <li>化学科 (48) (平成29年4月届出)</li> <li>生命科学科 (60) (平成29年4月届出)</li> <li>&lt;学科の設置&gt;</li> <li>都市環境学部</li> <li>地理環境学科 (30) (平成30年4月)</li> <li>都市基盤環境学科 (50) (平成30年4月)</li> <li>建築学科 (50) (平成30年4月)</li> <li>環境応用化学科 (60) (平成30年4月)</li> <li>観光科学科 (30) (平成30年4月)</li> <li>都市政策科学科 (35) (平成30年4月)</li> <li>システムデザイン学部</li> <li>情報科学科 (50) (平成30年4月)</li> <li>電子情報システム工学科 (85) (平成30年4月)</li> <li>(3年次編入4) (平成30年4月)</li> <li>機械システム工学科 (90) (平成30年4月)</li> <li>(3年次編入4) (平成32年4月)</li> <li>航空宇宙システム工学科 (45) (平成30年4月)</li> <li>インダストリアルアート学科 (50) (平成30年4月)</li> <li>&lt;学科の定員変更&gt;</li> <li>健康福祉学部理学療法学科〔定員減〕 (△5) (平成30年4月)</li> <li>&lt;学部及び学科の廃止&gt;</li> <li>都市教養学部都市教養学科 (廃止) (△900)</li> <li>(3年次編入学定員) (△8)</li> <li>※平成30年4月学生募集停止</li> <li>(3年次編入学定員は平成32年4月学生募集停止)</li> <li>都市環境学部都市環境学科 (廃止) (△200)</li> <li>※平成30年4月学生募集停止</li> <li>システムデザイン学部システムデザイン学科 (廃止) (△270)</li> <li>※平成30年4月学生募集停止</li> </ul>							

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<研究科の設置> 法学政治学研究科 法学政治学専攻博士前期課程 (6) (平成29年4月届出) 法学政治学専攻博士後期課程 (4) (平成29年4月届出) 法曹養成専攻(専門職学位課程) (52) (平成29年4月届出) 経営学研究科 経営学専攻博士前期課程 (50) (平成29年4月届出) 経営学専攻博士後期課程 (5) (平成29年4月届出) 理学研究科 数理学専攻博士前期課程 (25) (平成29年4月届出) 数理学専攻博士後期課程 (8) (平成29年4月届出) 物理学専攻博士前期課程 (35) (平成29年4月届出) 物理学専攻博士後期課程 (10) (平成29年4月届出) 化学専攻博士前期課程 (35) (平成29年4月届出) 化学専攻博士後期課程 (9) (平成29年4月届出) 生命科学専攻博士前期課程 (40) (平成29年4月届出) 生命科学専攻博士後期課程 (16) (平成29年4月届出) <研究科の専攻の定員変更> 都市環境科学研究科 都市環境科学専攻博士前期課程〔定員増〕 (2) (平成30年4月) 都市環境科学専攻博士後期課程〔定員減〕 (△2) (平成30年4月) システムデザイン研究科 システムデザイン専攻博士前期課程〔定員増〕 (43) (平成30年4月) システムデザイン専攻博士後期課程〔定員増〕 (2) (平成30年4月) 人間健康科学研究科 人間健康科学専攻博士前期課程〔定員増〕 (20) (平成30年4月) 人間健康科学専攻博士後期課程〔定員増〕 (3) (平成30年4月) <研究科の廃止> 社会科学研究科(廃止) 法学政治学専攻博士前期課程 (△6) 法学政治学専攻博士後期課程 (△4) 法曹養成専攻(専門職学位課程) (△52) 経営学専攻博士前期課程 (△40) 経営学専攻博士後期課程 (△5) ※平成30年4月学生募集停止 理工学研究科(廃止) 数理情報科学専攻博士前期課程 (△25) 数理情報科学専攻博士後期課程 (△8) 物理学専攻博士前期課程 (△33) 物理学専攻博士後期課程 (△9) 分子物質化学専攻博士前期課程 (△33) 分子物質化学専攻博士後期課程 (△9) 生命科学専攻博士前期課程 (△40) 生命科学専攻博士後期課程 (△16) 電気電子工学専攻博士前期課程 (△32) 電気電子工学専攻博士後期課程 (△6) 機械工学専攻博士前期課程 (△32) 機械工学専攻博士後期課程 (△6) ※平成30年4月学生募集停止				
	開設する授業科目の総数 講義 演習 実験・実習 計	卒業要件単位数			
教育学課程 法学部 法学科	196科目 41科目 8科目 245科目	124単位			

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新 設	人文社会学部	人間社会学科	22人 (28)	21人 (22)	0人 (0)	8人 (8)	51人 (58)	0人 (0)	518人 (518)
		人文学科	22人 (28)	23人 (24)	0人 (0)	2人 (2)	47人 (54)	0人 (0)	532人 (532)
	法学部	法学科	14人 (14)	17人 (17)	0人 (0)	0人 (0)	31人 (31)	0人 (0)	493人 (493)
	経済経営学部	経済経営学科	20人 (21)	13人 (13)	0人 (0)	0人 (0)	33人 (34)	0人 (0)	464人 (464)
	理学部	数理科学科	9人 (11)	11人 (11)	0人 (0)	2人 (2)	22人 (24)	1人 (1)	393人 (393)
		物理学科	7人 (7)	11人 (11)	0人 (0)	11人 (11)	29人 (29)	0人 (0)	399人 (399)
		化学科	8人 (10)	10人 (10)	0人 (0)	11人 (11)	29人 (31)	0人 (0)	385人 (385)
		生命科学科	6人 (7)	12人 (12)	0人 (0)	9人 (9)	27人 (28)	0人 (0)	386人 (386)
	都市環境学部	地理環境学科	6人 (6)	4人 (4)	0人 (0)	5人 (5)	15人 (15)	0人 (0)	445人 (445)
		都市基盤環境学科	7人 (7)	7人 (7)	0人 (0)	6人 (6)	20人 (20)	0人 (0)	431人 (431)
		建築学科	7人 (7)	6人 (6)	0人 (0)	7人 (7)	20人 (20)	0人 (0)	441人 (441)
		環境応用化学科	8人 (8)	9人 (9)	0人 (0)	10人 (10)	27人 (27)	0人 (0)	419人 (419)
		観光科学科	4人 (4)	6人 (6)	0人 (0)	4人 (4)	14人 (14)	0人 (0)	430人 (430)
		都市政策科学科	8人 (8)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	12人 (12)	0人 (0)	428人 (428)
	システムデザイン学部	情報科学科	7人 (7)	5人 (5)	0人 (0)	4人 (4)	16人 (16)	0人 (0)	447人 (447)
		電子情報システム工学科	15人 (15)	12人 (12)	0人 (0)	10人 (10)	37人 (37)	0人 (0)	447人 (447)
		機械システム工学科	12人 (12)	12人 (12)	0人 (0)	12人 (12)	36人 (36)	0人 (0)	460人 (460)
		航空宇宙システム工学科	7人 (7)	5人 (5)	0人 (0)	4人 (4)	16人 (16)	0人 (0)	453人 (453)
		インダストリアルアート学科	6人 (6)	6人 (6)	0人 (0)	5人 (5)	17人 (17)	0人 (0)	459人 (459)
分	計		195人 (213)	194人 (196)	0人 (0)	110人 (110)	499人 (519)	1人 (1)	- (-)
既 設	健康福祉学部	看護学科	8人 (9)	13人 (13)	0人 (0)	6人 (10)	27人 (32)	1人 (1)	461人 (461)
		理学療法学科	6人 (7)	3人 (3)	0人 (0)	3人 (3)	12人 (13)	0人 (0)	462人 (462)
		作業療法学科	6人 (6)	7人 (7)	0人 (0)	0人 (0)	13人 (13)	0人 (0)	459人 (459)
		放射線学科	6人 (6)	7人 (7)	0人 (0)	0人 (0)	13人 (13)	0人 (0)	466人 (466)

教員組織の概要	既設	大学教育センター	7人 (7)	7人 (7)	0人 (0)	4人 (4)	18人 (18)	0人 (0)	0人 (0)	
		学生サポートセンター	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	
		学術情報基盤センター	0人 (2)	1人 (1)	0人 (0)	3人 (3)	4人 (6)	0人 (0)	0人 (0)	
		国際センター	1人 (1)	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	
		オープンユニバーシティ	0人 (2)	2人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	2人 (5)	0人 (0)	0人 (0)	
		計	36人 (42)	43人 (44)	0人 (0)	16人 (20)	95人 (106)	1人 (1)	- (-)	
合計		231人 (255)	237人 (240)	0人 (0)	126人 (130)	594人 (625)	2人 (2)	- (-)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計			
	事務職員		262 (262)		136 (136)		398 (398)			
	技術職員		7 (7)		24 (24)		31 (31)			
	図書館専門職員		10 (10)		23 (23)		33 (33)			
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計		279 (279)		183 (183)		462 (462)			
校地等	区分		専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
	校舎敷地		368,807㎡	-㎡	-㎡		368,807㎡			
	運動場用地		51,239㎡	-㎡	-㎡		51,239㎡			
	小計		420,046㎡	-㎡	-㎡		420,046㎡			
	その他		7,995㎡	-㎡	-㎡		7,995㎡			
	合計		428,041㎡	-㎡	-㎡		428,041㎡			
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用		計				
		135,798㎡ (135,798㎡)	-㎡ (-㎡)	-㎡ (-㎡)		135,798㎡ (135,798㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	151室	70室	342室	12室 (補助職員 -人)	4室 (補助職員 -人)		大学全体			
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数					
		法学部			41室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	法学部	2,035,519 [697,721] (2,035,519 [697,721])	28,899 [8,901] (28,899 [8,901])	11,859 [10,722] (11,859 [10,722])	22,460 (22,460)	78,729 (78,729)	541,736 (541,736)	学部単位での特定不能 なため大学全体の数		
	計	2,035,519 [697,721] (2,035,519 [697,721])	28,899 [8,901] (28,899 [8,901])	11,859 [10,722] (11,859 [10,722])	22,460 (22,460)	78,729 (78,729)	541,736 (541,736)			
図書館	面積	閲覧席数		収納可能冊数						
	20,269㎡	1,144席		1,316,667冊		大学全体				
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	11,056㎡	野球場、球戯場、和・洋弓場		テニスコート6面、ゴルフ練習場等						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		1,193千円	1,193千円	1,193千円	1,193千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		875,721千円	875,721千円	875,721千円	875,721千円	—千円	—千円	
		図書購入費	291,075千円	291,075千円	291,075千円	291,075千円	291,075千円	—千円	—千円	電子ジャーナル、データベース等購入費を含む
	設備購入費	531,258千円	531,258千円	531,258千円	531,258千円	531,258千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	661.8千円	502.8千円	502.8千円	502.8千円	—千円	—千円	※上段が都内の学生、下段が都外からの学生			
	802.8千円	502.8千円	502.8千円	502.8千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		東京都からの運営費交付金等								





既設	人間健康科学研究科										
	人間健康科学専攻(M)	2	50	-	100	修士(看護学)(理学療法学)(作業療法学)(放射線学)(健康科学)(学術)	1.02	平成18年度			
大学等	人間健康科学専攻(D)	3	22	-	66	博士(看護学)(理学療法学)(作業療法学)(放射線学)(健康科学)(学術)	1.04	平成18年度			
	大学の名称	産業技術大学院大学									
大学の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	産業技術研究科								東京都品川区東大井一丁目10番40号		
	情報アーキテクチャ専攻	2	50	-	100	情報システム学修士(専門職)	1.06	平成18年度			
創造技術専攻	2	50	-	100	創造技術修士(専門職)	0.80	平成20年度				
大学の状況	大学の名称	東京都立産業技術高等専門学校									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	ものづくり工学科	5	320		1600	準学士	1.01	平成18年度	東京都品川区東大井一丁目10番40号 東京都荒川区南千住8丁目17番1号		
附属施設の概要		名称：小笠原研究施設 目的：小笠原諸島に関する研究 所在地：東京都小笠原村父島字宮之浜道一丁目3番 設置年月：平成4年4月 規模等：土地771㎡、建物547㎡									

教育課程等の概要															
(法学部法学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目群	基礎ゼミナール	1前	2					○						兼69	一部オムニバス方式
	小計(1科目)		2	0	0			-						兼69	
	情報リテラシー実践 I	1前	2					○						兼35	一部オムニバス方式、共同
	情報リテラシー実践 I A	1前		2				○						兼5	
	情報リテラシー実践 II A	1・2後		2				○						兼3	
	情報リテラシー実践 II B	1・2後		2				○						兼2	
情報リテラシー実践 II C	1・2後		2				○						兼1		
小計(5科目)			2	8	0			-						兼35	
言語科目	実践英語 I a	1前	1					○						兼50	
	実践英語 I b	1後	1					○						兼50	
	実践英語 I c	1前	1					○						兼12	
	実践英語 I d	1後	1					○						兼12	
	実践英語 II a	2前	1					○						兼35	
	実践英語 II b	2後	1					○						兼35	
	実践英語 II c	2前	1					○						兼13	
	実践英語 II d	2後	1					○						兼13	
	ドイツ語 I	1前・後		4					○					兼21	
	ドイツ語 II	2前・後		2					○					兼4	
	フランス語 I	1前・後		4					○					兼16	
	フランス語 II	2前・後		2					○					兼3	
	中国語 I	1通		4					○					兼13	
	中国語 II	2前・後		2					○					兼4	
	朝鮮語 I	1通		4					○					兼3	
	朝鮮語 II	2前・後		2					○					兼3	
	日本語 I	1通		4					○					兼3	
	日本語 II	2前・後		2					○					兼2	
	ロシア語 I	1・2通		4				○						兼1	
	ロシア語 II	1・2前・後		2				○						兼1	
	スペイン語 I	1・2前・後		4					○					兼1	
	スペイン語 II	2前・後		2					○					兼1	
	イタリア語 I	1前・後		4					○					兼1	
	イタリア語 II	2前・後		2					○					兼1	
	アラビア語 I	1・2通		4				○						兼1	
	アラビア語 II	1・2前・後		2				○						兼1	
	ギリシャ語 I	1・2通		4					○					兼1	
	ラテン語 I	1・2通		4					○					兼1	
小計(28科目)			8	62	0			-						兼120	
理系共通基礎科目	微分積分 I	1前		2				○						兼8	
	線形代数 I	1前		2				○						兼8	
	微分積分 II	1後		2				○						兼8	
	線形代数 II	1後		2				○						兼8	
	微分積分 III	2前		2				○						兼1	
	線形代数 III	2前		2				○						兼1	
	解析入門 I	2前		2				○						兼5	
	解析入門 II	2後		2				○						兼4	
	確率統計	2後		2				○						兼3	
	離散数学入門	2前		2				○						兼3	
	応用数理概論 I	2後		2				○						兼2	
	基礎微分積分	1・2後		2				○						兼1	
	基礎線形代数	1・2前		2				○						兼1	
	教養基礎物理 I	1前		2				○						兼3	
	教養基礎物理 II	1後		2				○						兼3	
初等物理 I	1・2前		2				○						兼1		

教育課程等の概要														
(法学部法学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目群	理系共通基礎科目	初等物理Ⅱ		2		○								兼1
		専門基礎物理Ⅰ	1・2後	2		○								兼2
		専門基礎物理Ⅱ	2前	2		○								兼2
		物理学概説Ⅰ	2後	2		○								兼1
		物理学概説Ⅱ	1・2前	2		○								兼1
		物理学概説Ⅱ	1・2後	2		○								兼1
		物理通論Ⅰ	1・2後	2		○								兼4
		物理通論Ⅱ	1前	2		○								兼4
		物理通論Ⅱ	1後	2		○								兼4
		物理学実験第一	1・2前・後	2				○						兼8
		化学概説Ⅰ	1前	2		○								兼4
		化学概説Ⅱ	1後	2		○								兼2
		一般化学Ⅰ	1前	2		○								兼2
		一般化学Ⅱ	1後	2		○								兼1
		化学実験	1後	2				○						兼29
		一般生物学Ⅰ	1後	2				○						オムニバス方式
		一般生物学Ⅱ	1・2前	2		○								兼4
	一般生物学Ⅱ	1・2後	2		○								オムニバス方式	
	生物学実験入門1	1・2休	1				○						兼7	
	生物学実験入門2	1・2休	1				○						オムニバス方式、集中	
	生物学概説ⅠA	1・2前	2		○								兼7	
	生物学概説ⅡA	1・2前	2		○								オムニバス方式	
	生物学概説ⅡA	1・2後	2		○								兼3	
	生物学概説ⅡA	1・2後	2		○								兼3	
	小計(35科目)		0	68	0		-							兼82
保健体育科目	身体運動学	1・2前・後		2		○								兼2
	身体運動演習	1・2前・後		2			○							兼8
	スポーツ実習	1・2前・後		1				○						兼8
	小計(3科目)		0	5	0		-							兼8
キャリア教育科目	キャリア形成	1・2前		2		○								兼1
	キャリア形成演習	1・2後		2			○							兼1
	学びのデザイン：理論と実践	1・2後		2		○								兼1
	現場体験型インターンシップ	1・2前		2				○						兼1
	国際交流概論	1前		2		○								兼3
	国際交流概論	1前		2		○								兼3
	小計(5科目)		0	10	0		-							兼5
教養科目群	都市・社会・環境	アジア・アフリカ社会論	1・2前	2		○								兼5
		社会と福祉	1・2後	2		○								オムニバス方式
		生活と福祉	1・2後	2		○								兼1
		情報社会と法	1・2後	2		○				1				隔年
		日本国憲法	1・2後	2		○				1	1			隔年
		都庁の仕組みと仕事	1・2前	2		○				1				
		官庁の仕組みと仕事	1・2前	2		○				1				
		官庁の仕組みと仕事	1・2後	2		○				1				
		生態と環境	1・2後	2		○								兼1
		動物の生態と多様性	1・2前	2		○								兼1
		動物の生態と多様性	1・2後	2		○								兼1
		自然と社会と文化	1・2休	2		○								集中
		自然と社会と文化	1・2休	2		○								兼1
		都市政策科学概論	1・2前	2		○								兼1
		都市政策科学概論	1・2前	2		○								兼1
		地域環境の人文地理	1・2後	2		○								兼1
		地域環境の人文地理	1・2後	2		○								兼1
		都市空間の人文地理	1・2前	2		○								兼1
		都市空間の人文地理	1・2前	2		○								兼1
		都市の技術	1前	2		○								兼9
		都市の技術	1後	2		○								兼4
	エネルギー化学入門	1後	2		○								オムニバス方式	
	環境調和化学入門	1後	2		○								オムニバス方式	
	環境調和化学入門	1前	2		○								兼2	
	観光科学概論	1前	2		○								兼6	
	観光科学概論	1前	2		○								兼6	
	社会と経営	1・2前	2		○								兼1	
	社会と経営	1・2前	2		○								兼1	
	特定社会活動	1・2前・後	6					○					兼1	
	特定社会活動	1・2前・後	6					○					兼1	
	Tourism theories and practice	1後	2		○								兼6	
	Tourism theories and practice	1後	2		○								兼6	
	多摩の里山学	1通	2		○								兼1	
	多摩の里山学	1通	2		○								兼1	
	小計(21科目)		0	46	0		-		4	1				兼35





教育課程等の概要														
(法学部法学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤科目群	エアフレームデザイン概論	1・2前		2		○								兼1
	小計(7科目)		0	14	0		-							兼12
健康科学領域	人間発達学	1後		2		○								兼2 オムニバス方式
	医療統計学	1前		2		○								兼1
	移動の人間工学	1後		2		○								兼1
	医療と情報	1後		2		○								兼1
	保健医療概論	1前		2		○								兼7 オムニバス方式
	リハビリテーション概論	1前		2		○								兼2 オムニバス方式
	小計(6科目)		0	12	0		-							兼13
専門教育科目群	憲法一部	1通	4			○				1				
	民法一部	1通	4			○				1				
	民法二部	2通		4		○				1				
	民法三部	3通		4		○			1					
	刑法一部	1通		4		○				1				
	商法一部	2通		4		○				1				
	民事訴訟法一部	3通		4		○				1				
	刑事訴訟法	3・4通		4		○				1				
	憲法二部	2前		2		○			1					
	民法四部	3・4通		4		○			1					
	刑法二部	2通		4		○			1					
	商法二部	3通		4		○				1				
	商法三部	3・4通		4		○				1				
	民事訴訟法二部	3・4通		4		○				1				
	行政法一部	2通		4		○				1				
	行政法二部	3・4通		4		○				1				
	財政法	3・4通		4		○				1				
	国際法	2・3通		4		○				1				
	労働法	3・4通		4		○				1				
	国際私法	3・4通		4		○				1				
	刑事学	3・4通		4		○								兼1
	法哲学	2・3・4通		4		○			1					
	法社会学	2・3・4通		4		○			1					
	経済法	2・3・4通		4		○								兼1
	知的財産法	3・4通		4		○			1					
	情報法	3・4通		4		○			1	2				オムニバス方式
	消費者法	3・4通		4		○								兼1
	政治学	1通		4		○				1				
	行政学	2・3通		4		○			1					
	日本政治史	2・3通		4		○			1					
	西洋政治史	2・3通		4		○			1					
	現代日本政治	2・3通		4		○				1				
国際政治	2・3通		4		○				1					
日本政治思想史	2・3通		4		○			1						
西洋政治思想史	3・4通		4		○			1						
比較政治	3・4通		4		○			1						
都市行政論	3・4通		4		○			1						
法律学政治学特殊講義	1・2・3・4前・後・通		2又は4		○			1	1				兼8	
法律学政治学演習	2・3・4前・後・通		2又は4			○		14	16					
インターンシップ	3・4前		1又は2				○	1						
法律学卒業論文	4通		10				○	7	13					

教育課程等の概要															
(法学部法学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	政治学卒業論文	4通		10				○			7	3			
	小計(42科目)	—	8	168	0			—			14	17			兼11
	合計(245科目)	—	20	577	0			—			14	17			兼493
学位又は称号		学士(法学)		学位又は学科の分野			法学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
<b>【卒業要件単位 124単位】</b> ○基礎科目群、教養科目群及び基盤科目群の授業科目を26 単位以上 (1) 基礎ゼミナール 2 単位 (2) 情報科目 2 単位 (3) 第一群言語科目 8 単位 (4) 教養科目群及び基盤科目群に属する科目並びにキャリア教育科目 14 単位 ○専門教育科目 72 単位以上							1 学年の学期区分			2期					
							1 学期の授業期間			15週					
							1 時限の授業時間			90分					

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目 群	基礎 ゼミ ナール	それぞれのテーマについて、個人あるいはグループで考え、必要に応じて調査・研究を行い、課題発見と問題解決のための能力を養う。調査研究成果や考えを口頭で発表したり、レポートにまとめたりすることによってプレゼンテーション能力、文章による表現能力の向上を目指す。これらの演習を通じて、受講生の多様な価値観を認識するとともに、人間関係構築の重要性を学ぶ。  なお、以下の教員はオムニバス方式で授業を行う。 オムニバス方式（全15回） （111 首藤啓／8回） インターネットとのつきあい方 （113 柳和宏／7回） ナノと社会	一部オムニバス方式
基礎 科目 群	情報 科目 目	ツールとしてICTを活用し、情報の収集、分析、編集、発信、コミュニケーションといった情報処理に関わる能力の向上を目指す。アプリケーションの使い方を学ぶだけでなく、具体的な問題解決を行う。以下が具体的な学習内容である。情報倫理、本学教育システム、ファイル・フォルダの管理、電子メール送受信、コンピュータやネットワークの仕組み、情報検索、文書編集、表計算の基礎、プレゼンテーション、簡単なプログラミング、動画編集、HTML  なお、以下の教員はオムニバス方式で授業を行う。 オムニバス方式1（全15回） （355 近藤伸彦、333 武市昇／7回） 情報倫理、本学教育システム、ファイル・フォルダの管理、電子メール送受信、コンピュータやネットワークの仕組み、情報検索、文書編集 （〔H30年度〕407 西崎実穂、355 近藤伸彦、136 村越潤 〔H31年度〕134 梅山元彦、〔H32年度〕296 荒井康裕、 〔H33年度〕301 横山勝英／8回） 表計算の基礎、プレゼンテーション、簡単なプログラミング、動画 オムニバス方式2（全15回） （325 相馬隆郎、163 小林訓史／12回） 情報倫理、本学教育システム、ファイル・フォルダの管理、電子メール送受信、コンピュータやネットワークの仕組み、情報検索、文書編集、表計算の基礎、プレゼンテーション、簡単なプログラミング （355 近藤伸彦／3回） 動画編集、HTML オムニバス方式3（全15回） （324 澁谷正弘、328 小原弘道／11回） 情報倫理、本学教育システム、ファイル・フォルダの管理、電子メール送受信、コンピュータやネットワークの仕組み、情報検索、文書編集、表計算の基礎、プレゼンテーション （188 立花宏／4回） 簡単なプログラミング、動画編集、HTML  オムニバス方式4（全15回） （355 近藤伸彦／7回） 情報倫理、本学教育システム、ファイル・フォルダの管理、電子メール送受信、コンピュータやネットワークの仕組み、情報検索、文書編集 （403 塩田さやか／2回） 表計算の基礎 （404 下川原英理／2回） プレゼンテーション （405 藤田八郎／2回） 簡単なプログラミング （402 作元雄輔／2回） 動画編集、HTML	一部オムニバス方式、共同
	情報リテラシー実践 I		

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	情報科目 情報リテラシー実践 I	<p>オムニバス方式5(全15回) (399 乗富秀富/2回) 情報倫理講習、学内PC/ネット環境の説明とログイン/ログオフ、レディネス調査、e-learning システム(kibaco)の利用方法、タイピングの演習 学生用メール「Office365」の利用方法、図書館情報検索法、Web 情報検索法 (396 竹歳絢子、395 曾湖烈、392 稲垣佑亮/4回) Word による理系文章の編集、表の作成、Word による科学英文資料の作成、倫理講習の確認テスト、PowerPoint による理系スライド資料の作成、総合課題①(文書レポート作成+プレゼン資料作成) (394 嶋田哲也、400 三浦大樹、393 近藤敏彰/4回) Excel による表計算、グラフ作成、Excel によるデータ処理(簡単な統計解析)、Excel 関数とVBA 基礎、総合課題②(Excel を使った理工系の課題) (398 西藪隆平、401 棟方裕一、397 田中学/4回) 分子表示ソフトの使い方(ChemSketch)、分子モデリングソフトの使い方-1(Avogadro)、分子モデリングソフトの使い方-2(Jmol)、総合課題③、分子軌道計算&lt;単純Huckel 法&gt;(SHMO)、他のソフトの紹介、FD 授業評価 ([H30年度] 308 加藤俊吾、399 乗富秀富 [H31、H32年度] 309 柳下崇、399 乗富秀富 [H33年度] 310 山登正文、399 乗富秀富/1回) 達成度確認</p>	一部オムニバス方式、共同
基礎科目群	情報科目 情報リテラシー実践 I A	<p>基本的な情報活用能力に係る知識、技能を習得すると共に、表計算ソフトウェアの発展的利用として、基本的な統計処理を含む問題解決に取り組む。以下が具体的な学習内容である。情報倫理、本学教育システム、ファイル・フォルダの管理、電子メール送受信、コンピュータやネットワークの仕組み、情報検索、表計算の基礎、基本統計量、母集団と標本、正規分布とt分布、等分散を仮定した2グループの平均のt検定、等分散でないを仮定した2グループの平均のt検定、対応のある2グループの平均の検定、相関分析、単回帰分析</p>	
基礎科目群	情報科目 情報リテラシー実践 II A	<p>コンピュータを用いた統計処理の基礎的知識とデータの処理手法、そして、データベースについての基礎的知識とデータの処理手法について学ぶ。また、実践的な課題を通して、統計処理とデータベースの活用に取り組む。以下が具体的な学習内容である。基本統計量、度数分布と統計図表、母集団と標本、正規分布・t分布、母平均に関する検定と推定、母平均の差に関する検定と推定、分割表の検定、相関分析、回帰分析、データベースの分類、テーブル、フォーム、レポート、クエリ、リレーショナル型データベースの基礎、選択、射影、結合</p>	
基礎科目群	情報科目 情報リテラシー実践 II B	<p>計算機科学やアルゴリズムなどプログラミングに関しての基礎的知識を学ぶと共に、実際にプログラムを作成することを通して数理工学的な問題解決に取り組む。以下が具体的な学習内容である。エディタの使用法、プログラミングの基礎知識(ソースコード、翻訳、実行)、アルゴリズム、変数の定義と変数の型宣言、論理型変数と型変換、代入文、繰り返し文、条件文、配列、キーボードからのデータ入力、ファイルの読み書き、メソッドの作成、プログラミングによる問題解決</p>	
基礎科目群	情報科目 情報リテラシー実践 II C	<p>画像と音のデジタル化の原理を知り、コンピュータ上での画像の扱い方の基礎、音の処理方法の基礎について学ぶ。以下が具体的な学習内容である。ラスタ(ビットマップ)画像、領域の選択、レイヤーの操作、ラスタ画像の合成、エフェクト、ベクター画像、ベジエ曲線、画像のトレース、立体感のある画像の作成、文字の加工、フィルタ、ベクター画像の課題作成、デジタルサウンド、音の種類と波形、音の編集、エフェクト、MIDI音源、音のミックス</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（法学部 法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目 群	言語 科目  実践英語Ⅰa	「実践英語Ⅰa」では、統一教科書を使用し、専門教育に必要な英語力の基礎を身につけることを目標に、語彙力の増強を図るとともに、論理的思考が身につくよう英文の読解を指導していく。同時に言語の背景にある文化・歴史を学生が深く理解し、知的視野を広げられるよう、学生自身の自主的な学習を促していく。そのために比較的難易度の高い英文を講読させ、英語力のさらなる充実を図っていく。また課題に取り組む姿勢を身につけるため、自ら進んで英語学習に取り組む姿勢を涵養していく。	
基礎 科目 群	言語 科目  実践英語Ⅰb	「実践英語Ⅰb」では「実践英語Ⅰa」に引き続き、統一教科書を使用し、専門教育に必要な英語力の基礎を身につけることを目標に、語彙力の増強を図るとともに、論理的思考が身につくよう英文の読解を指導していく。また教科書と与えられる規範とすべきインプットを、如何にアウトプットに変えるかを意識させ、学生の発信力を強化する事を企図する。そのために比較的難易度の高い英文を講読させ、英語力のさらなる充実を図っていく。また課題に取り組む姿勢を身につけるため、自ら進んで英語学習に取り組む姿勢を涵養していく。	
基礎 科目 群	言語 科目  実践英語Ⅰc	「実践英語Ⅰc」では、学生が生の英語に触れられる環境を提供することで、会話や討論の能力を伸ばせるよう授業を行っていく。授業は日本語を使用しない事を前提として学生が聴く能力と話す能力を強化していく。それぞれの学習単位ごとに学生の学習達成度が確認され、学生がすでに学んだ内容を生かして使えるよう、サポートが行われる。学生からの質問、発表、クラス内でのアクティビティを通して実践的な英語能力を養っていく。	
基礎 科目 群	言語 科目  実践英語Ⅰd	「実践英語Ⅰd」では、学生が生の英語に触れられる環境を提供することで、学生が会話や討論の能力を伸ばせるよう授業を行っていく。授業は、学生が自然に会話を展開し、様々な視点から物事を眺められるよう構築されている。新しい語彙や文法要素がそれまでの知識と統合されるべく与えられる。それぞれの学習単位ごとに学生の学習達成度が確認される。学生からの質問、発表、クラス内でのアクティビティを通して実践的な英語能力を養っていく。	
基礎 科目 群	言語 科目  実践英語Ⅱa	「実践英語Ⅱa」においては、学生の関心に沿った形で複数の授業選択肢を提示し学習の動機付けを強化する。基本的には「実践英語Ⅰ」に準じる形で専門教育に必要な英語力の基礎を身につけることを目標に、さらに語彙力の増強を図るとともに、論理的思考が身につくよう英文の読解を指導していく。同時にアウトプットを行う際、利用すべき母型としてインプットを見る視線を養い、さらに任意の英語の文が別の文との組み替えによって、次の正しい新たな文を生み出す事を意識させ、アウトプットの充実を図らせる。	
基礎 科目 群	言語 科目  実践英語Ⅱb	「実践英語Ⅱb」においても、学生の関心に沿った形で複数の授業選択肢を提示し、学生に選ばせる形式を取る。言語の背景にある文化・歴史を学生が深く理解し、知的視野を広げられるよう、学生自身の自主的な学習を促していく。そのために比較的難易度の高い英文を講読し、英語力のさらなる充実を図っていく。また引き続きインプットをアウトプットにつなげる事を意識させるが、単文にとどまらず因果関係に基づいて、説得的に英文を提示できるよう指導していく。そのために比較的難易度の高い英文を講読し、英語力のさらなる充実を図っていく。	
基礎 科目 群	言語 科目  実践英語Ⅱc	「実践英語Ⅱc」では、学生が生の英語に触れられる環境を提供することで、学生が会話や討論の能力を伸ばせるよう授業を行っていく。授業は、批判的思考や言語的能力を養うことを目標に構築されている。双方向的なフォーマットを学ばせることで、より深いコミュニケーションを達成できるよう指導される。学生が学んだ内容を生かして使えるよう、教員によるサポートが行われ、学生からの質問、発表、クラス内でのアクティビティを通して実践的な英語能力を養っていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目 群	言語 科目  実践英語Ⅱd	「実践英語Ⅱd」では、学生が生の英語に触れられる環境を提供することで、学生が会話や討論の能力を伸ばせるよう授業を行っていく。授業は、批判的思考や言語的能力を養うことを目標に構築され、ワークブックでの作業を通して学生が自ら英作文を行い、能動的に発信する手段を獲得させていく。学生が学んだ内容を生かして使えるよう、教員によるサポートが行われ、学生からの質問、発表、クラス内でのアクティビティを通して実践的な英語能力を養っていく。	
基礎 科目 群	言語 科目  ドイツ語Ⅰ	ドイツ語の読み書きの基本となる基礎的な文法事項の学習を行う。基本的な文法、発音、語彙、構文、よく使われる表現パターンなどの習得を目指す。練習問題も行うことで、初級の文法についての知識を確実にし、さらにテキストを読んでいく上での基礎的な力をつける。ドイツ語検定試験の4級に合格する程度の語学力を獲得することを目指す。	
基礎 科目 群	言語 科目  ドイツ語Ⅱ	ドイツ語のテキストを読むことによって、新聞などのドイツ語圏情報を取捨・選択するための技能の基礎力をつける。視聴覚教材を利用した応用なども行なう。文化・社会・経済情報なくしては外国語を理解することはできない。この授業では、ドイツ語の教材を通して得られるドイツ語圏(ドイツ、スイス、オーストリアなど)の文化やものの見方、生活の仕方などを学習し、英語圏の文化とは異なる文化に慣れ親しむことも目標にしている。	
基礎 科目 群	言語 科目  フランス語Ⅰ	フランス語の聞く・話す・読み・書きの基礎をひとつお習得する。その目標は、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解、基礎的な文の聞き分け、日常使われる基礎的な応答表現の理解、基礎的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識の把握、動詞の基本的な活用の習得である。また、語学学習に加えて、フランス文化の紹介を適宜おこない、異文化理解の感性を磨く。	
基礎 科目 群	言語 科目  フランス語Ⅱ	聞く・書く・読む・話すといった全方位的な運用能力の面で、初級フランス語の基礎知識を補強する総合的な中級講座である。その目標は、日常的に使われる表現を理解し、簡単な文による長文の内容を理解できること、日常生活で使われる簡単な表現や、基本的語句を正しく書くことができること、簡単な会話を聞いて内容を理解できること、基本的な文法知識を全般的に理解していることである。	
基礎 科目 群	言語 科目  中国語Ⅰ	初学者を対象に、現代中国語(共通語)の発音、文字、語彙、文法、表現法などの総合的な面での基礎知識を習得し、その運用能力を養成することを目的とする。また、語学の学習を通じて、日本人(日本語)と同種もしくは異種の思考方法や論理的・認知的アプローチが世界に存在することを認識し、語学学習から得られるさまざまな中国文化の様に触れることによって、異文化に対する理解を深めることも目指す。	
基礎 科目 群	言語 科目  中国語Ⅱ	1年間の学習で得た基礎的な知識に基づいて、現代中国語(共通語)の表現伝達能力ならびに読解能力などをさらに高め、実際に中国語文化圏において基本的(日常的)なコミュニケーションが図れる程度の能力を養成することを目的とする。中国語Ⅰと同様の観点から、語学学習を通して中国および中国語文化圏の諸地域に対する異文化理解を深め、社会的・歴史的に幅広い知識を習得する。	
基礎 科目 群	言語 科目  朝鮮語Ⅰ	朝鮮語(韓国語・コリア語)の話す・聞く・書く・読むの四技能の基本を身につけるための授業。朝鮮語と日本語は親戚語のような関係にあり、文の構造は類似し、語彙にも共通するものが多い。韓国人とのコミュニケーションを前提として学び、授業中には口と手をよく動かしてもらおう。隣国の文化や社会について知るために、映像資料等も多用する。	
基礎 科目 群	言語 科目  朝鮮語Ⅱ	朝鮮語Ⅰで学んだ技能を発展させるために、新しい表現や文法を加えると同時に、会話を取り入れ、また映像資料や新聞・雑誌といった教材を活用して実践的な授業を行う。外国語は使うために学ぶのであって、朝鮮語(韓国語・コリア語)の場合は、このレベルですでに実践可能である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目 群	言語 科目  日本語Ⅰ	総合的に日本語学習を行う。文法学習では、これまでの理解できる文法から正しく理解し正しく使える文法レベルにする。スピーチ学習では、人の前で話すことになれ、さらに聞き手を意識して話せるように練習を繰り返す。レジュメ作成練習では、伝えたいことの要点を、聞き手に合わせたレジュメが作れるようにし、よいレジュメとはどのようなものかを探っていく。プレゼンテーション学習では、パワーポイントを使い視覚に訴える部分と口頭での発表部分を練習する。語彙学習では、既習語でも、他の語と組み合わせることによって、複雑な意味を表せることを理解し、それらを適切に使用する練習をする。	
基礎 科目 群	言語 科目  日本語Ⅱ	技能別クラスである。「読む」「話す」「聞く」「書く」それぞれの技能を向上させるために以下のような活動を行う。読む練習では、新聞のコラムや資料を読み、内容を理解する。書く活動では新聞のコラムを要約し、表現について検討する。話す活動では、宿題として課されたコラムや資料についてその内容や背景を授業で説明する。聞く活動では、ニュースのディクテーション、動画ニュースの視聴を行う。このような活動を通して、アカデミックな場での発信能力を高める。	
基礎 科目 群	言語 科目  ロシア語Ⅰ	ロシア語を読む・書く・聞く・話すの四技能の基本を習得することを目的とする講義。ロシア語の基本的な文法と会話表現を習得する。辞書を引きながら、簡単な文章を読解できるレベルを目指す。また、ロシア語の基礎を学びながら、ロシアの文化や歴史、現状について基本知識を身につける。予備知識は必要としない。	
基礎 科目 群	言語 科目  ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅰで学んだ技法を発展させるために、初級文法を確認しながら、中級文法・会話表現を学ぶ。ロシア語を読むのに必要な基本文法を習得しおえ、新聞程度の文章を、辞書を用いながら読めるレベルを目指す。	
基礎 科目 群	言語 科目  スペイン語Ⅰ	講義形式でテキストに添って進行する。各課の文法事項を説明、練習すると同時に、関連する会話表現の練習をする。一応の文法事項をテキストに添って講義形式で学んだ後に、短編等を演習形式で読む。	
基礎 科目 群	言語 科目  スペイン語Ⅱ	文法や語彙力を磨き、スペイン語のリーディング技能を学ぶ。ここでは、スペインの伝統文化であるいくつかの「祭り」に関して書かれた文章を読みながら、スペイン語の読解力を修得していく。辞書を使いすぐに不明な語や表現を探することができるように辞書を引くことを習慣づける。	
基礎 科目 群	言語 科目  イタリア語Ⅰ	イタリア語の聞く・話す・読み・書きの基礎をひととおり習得する。その目標は、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解、基礎的な文の聞き分け、日常使われる基礎的な応答表現の理解、基礎的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識の把握、動詞の基本的な活用の修得である。また、語学学習に加えて、イタリア文化の紹介を適宜おこない、異文化理解の感性を磨く。	
基礎 科目 群	言語 科目  イタリア語Ⅱ	聞く・書く・読む・話すといった全方位的な運用能力の面で、初級イタリア語の基礎知識を補強する総合的な中級講座である。その目標は、日常的に使われる表現を理解し、簡単な文による長文の内容を理解できること、日常生活で使われる簡単な表現や、基本的語句を正しく書くことができること、簡単な会話を聞いて内容を理解できること、基本的な文法知識を全般的に理解していることである。	
基礎 科目 群	言語 科目  アラビア語Ⅰ	アラビア語は、中東や北アフリカを中心とする20カ国以上の公用語であり、世界中の使用者は2億人以上である。また、イスラームの聖典『クルアーン(コーラン)』の言語として、イスラーム文明の歴史において多大な役割を果たしてきた。本講義では、アラビア文字の読み書きと正則文語アラビア語の基礎文法、日常会話に必須の語彙や挨拶や感謝の表現を身に付ける。その上で、辞書を用いて文章を独力で読解する能力と、基本的な作文・会話能力を習得することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目 群	言語 科目  アラビア語Ⅱ	本講義はアラビア語既習1年以上の者を対象とし、簡単な新聞記事にはじまり小説まで読めるようになることを目標とする。アラビア語は、千年以上の長い伝統と豊かな古典の蓄積を持つ言語である。本講義では、受講者の要望を考慮しつつ、古典から現代文にいたる幅広いテキストを読み解いていく。アラビア語文章の精読に取り組むことで、アラビア語の運用能力を高めるとともに、テキストの背景にある中東の文化・社会・歴史などを見ていく。	
基礎 科目 群	言語 科目  ギリシャ語Ⅰ	西洋文化の根元的理解の鍵となる古典ギリシア語について、その文法を全くの基礎より始めて、初歩的な原典講読において必要となる文法事項を一年間でひととおり修得することを目標とする。具体的には、古典ギリシア語初等文法の教科書をテキストとして用いて、文字や発音・アクセント等から順次、各課ごとの変化形や文法事項の説明を理解し、練習問題を解くことが学習の実質をなす。従って出席者には予習として必ず各課の説明を熟読した上で練習問題を解いてくることが求められる。	
基礎 科目 群	言語 科目  ラテン語Ⅰ	西洋文化を理解する上での鍵となるラテン語について、その文法をまったくの基礎より始めて、初歩的な原典講読において必要となる文法事項を一年間でひととおり修得することを目標とする。具体的には、ラテン語初等文法の教科書をテキストとして用いて、文字や発音・アクセント等から順次、各課ごとの変化形や文法事項の説明を理解し、練習問題を解くことが学習の実質をなす。従って出席者には予習として必ず各課の説明を熟読した上で練習問題を解いてくることが求められる。	
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目  微分積分Ⅰ	1 変数関数の微分法、積分法について講義を行う。具体的な内容は以下の通りである。1. 数列の極限、実数の連続性 2. 関数の極限、連続関数、中間値の定理 3. 初等関数 4. 微分（定義、導関数の計算公式、高階導関数） 5. 平均値の定理、テイラー展開 6. 微分の応用（関数の極値と凹凸） 7. 不定積分（定義、置換積分、部分積分） 8. 定積分（定義、置換積分、部分積分）、微分積分学の基本定理 9. 広義積分 10. 積分の応用（面積、曲線の長さ）	
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目  線形代数Ⅰ	ベクトル空間、線型変換、連立1次方程式の解法、行列、行列式、クラメル公式などを含む線型代数の入門講義である。具体的な内容は以下の通りである。1. 空間ベクトルとn次元ベクトル 2. 線型変換 3. 行列（定義、演算） 4. 連立1次方程式の解法（はき出し法） 5. 逆行列とベクトルの一次独立 6. 行列の階数と正則行列 7. 行列式の定義 8. 行列式の性質 9. 行列の積の行列式 10. 余因数展開 11. クラメル公式	
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目  微分積分Ⅱ	多変数（主として2変数）の微分法、積分法に関する講義を行う。具体的な内容は以下の通りである。1 変数関数の微分法、積分法では現れなかった偏微分や重積分を学ぶ。1. 点集合（開集合、閉集合、境界）、点列の極限 2. 多変数関数の極限と連続性 3. 偏微分（定義、高階偏導関数、偏微分の順序、合成関数の偏微分、テイラー展開） 4. 偏微分の応用 5. 陰関数 6. 重積分（定義、累次積分） 7. 重積分における変数変換 8. 広義重積分 9. 重積分の応用（面積、体積、表面積）	
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目  線形代数Ⅱ	「線形代数Ⅰ」に引き続き、抽象ベクトル空間や内積空間の概念を含む線型代数の基礎理論を学ぶ。具体的な内容は以下の通りである。1. 部分空間と次元 2. (抽象)ベクトル空間の定義と実例 3. 基底の変換と変換行列 4. 線型変換と基底の変換 5. n次元ユークリッド空間と内積 6. 直交性と正規直交基底、グラム・シュミットの直交化 7. 転置行列 8. 直交変換と直交行列 9. 固有値と固有ベクトル 10. 対称行列の対角化 11. 二次形式の標準形	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目  微分積分Ⅲ	「微分積分Ⅰ、Ⅱ」で学んだ内容を前提として、さらに進んだ微分積分について講義する。具体的な内容は以下の通りである。1. 無限級数 2. 関数列と関数項級数の一様収束、項別微分、項別積分 3. ベキ級数 4. 積分記号下の微分積分 5. ベクトル値関数の微積分 6. スカラー場の勾配、ベクトル場の発散、ベクトル場の回転 7. 曲線と曲面 8. ベクトル場とスカラー場の線積分 9. グリーンの公式 10. ベクトル場とスカラー場の面積分 11. ガウスの発散定理 12. ストークスの定理	
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目  線形代数Ⅲ	「線形代数Ⅰ、Ⅱ」で学んだ内容を前提として、さらに進んだ線型代数について講義する。行列のジョルダン標準形についての詳しい解説が中心となる。具体的な内容は以下の通りである。1. 固有値と固有ベクトル 2. 固有空間 3. 一般化された固有空間 4. 固有空間への分解 5. ジョルダンの標準形と最小多項式 6. エルミート行列 7. ユニタリ行列 8. 正規行列と対角化可能性 9. 二次形式とその標準形 10. 双対空間 11. 有限体とその上のベクトル空間	
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目  解析入門Ⅰ	物理学や工学などに現れる現象の多くは微分方程式で記述される。この講義では、基本的な常微分方程式の考え方、解法、基礎理論を学ぶことを目標とする。具体的な内容は以下の通りである。1. 微分方程式の一般解と特殊解 2. 求積法で解ける1階微分方程式（変数分離形、同次形、完全微分方程式、1階線型微分方程式） 3. 2階線型微分方程式 4. 定数係数の2階線型微分方程式と連立微分方程式の解法 5. ラプラス変換と逆変換 6. ラプラス変換の常微分方程式への応用 7. 初期値問題の解の存在と一意性定理と線型常微分方程式 8. 微分方程式の数値解法	
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目  解析入門Ⅱ	自然科学や工学などの多方面に応用の広い複素関数論の基本的事項を講義する。具体的な内容は以下の通りである。1. 複素数と複素平面 2. ベクトル解析の基礎 3. 複素変数の初等関数 4. 正則関数とコーシー・リーマンの方程式 5. 複素積分とコーシーの積分定理 6. コーシーの積分公式 7. 複素関数項の級数、ベキ級数 8. テイラー展開 9. 正則関数の基本的な性質 10. 有理型関数とローラン級数 11. 孤立特異点、留数と留数定理 12. 留数定理を用いた定積分の計算	
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目  確率統計	自然や社会の現象には偶然に支配されているとみなされるものが多い。そこで、そういった事柄を扱う数学的考え方を学ぶことは非常に重要である。確率統計は特に保険（リスク管理）、数理ファイナンス、制御工学、気象学、OR、統計物理学など、多くの分野に直接的応用が見出される。この科目では、確率統計学の基本的考え方を重要なモデルを理解することによって学び、いくつかの応用例も扱いたい。	
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目  離散数学入門	離散数学は、有限の対象を扱う学問であり、計算機の理論的基礎とも密接に関連している。数学以外への応用も非常に多いこの分野について、初心者向けに解説を行うのがこの講義の目標である。具体的な内容は以下の通りである。1. 順列・組み合わせ 2. 母関数 3. スターリング数 4. ポリアの数え上げ理論 5. ラムゼイの定理 6. マッチング（安定結婚） 7. マッチング（最大マッチング） 8. ネットワークフロー 9. ハミルトン路、オイラー路 10. 平面と4色定理	
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目  応用数理概論Ⅰ	フーリエ解析（フーリエ級数およびフーリエ変換）の基本的事項を解説し、その応用として、基本的な偏微分方程式の解法について講義する。具体的な内容は以下の通りである。1. フーリエ級数 2. フーリエ変換 3. 特殊関数（ルジャンドル関数、ベッセル関数） 4. 直交関数系とスツルム・リウヴィルの固有値問題 5. 1次元熱方程式 6. 1次元波動方程式、ダランベールの解 7. 2次元ラプラス方程式、ポアソンの積分公式	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	理系共通基礎科目 基礎微分積分	微分積分の基礎理論を講義する。高校で微分積分を学ぶ機会のない文系の学生にも、微分積分の基本的事項とそれがどのように応用されるかが理解できるようになることを目的とする。具体的な内容は以下の通りである。1. 数列とその極限 2. 関数の極限 3. 連続関数 4. 初等関数(有理関数、無理関数、指数関数、対数関数、弧度法と三角関数) 5. 微分の定義、導関数の計算 6. 平均値の定理、テイラー展開 7. 微分の実用(関数の極値と凹凸) 8. 不定積分の定義と計算 9. 定積分の定義と計算 10. 積分の実用	
基礎科目群	理系共通基礎科目 基礎線形代数	線型代数の基礎理論を講義する。行列の初歩から出発し、行列の対角化を目標とする。特に、2次元と3次元のベクトル、行列を例にとりながら平面・立体幾何と関連させつつ学ぶ。2次元と3次元空間のベクトル、直線、平面、行列、行列の乗法、連立1次方程式、行列の階数、行列式、クラメル公式、線型空間と線型写像、内積、正規直交基底、グラム・シュミットの直交化、直交行列などを学ぶ。	
基礎科目群	理系共通基礎科目 教養基礎物理 I	ニュートン力学の体系的な学習を通じて物理学の基礎を理解することを目的とする。本講義では高等学校で物理を学習済であることを前提とする。ベクトルや初等微積分などの復習からはじめ、質点の力学、運動の法則、運動とエネルギー、振動および相対運動、角運動量、質点系の力学などを、必要となる数学をあわせて学ぶ。本講義の内容は教養基礎物理IIに引き継がれる。	
基礎科目群	理系共通基礎科目 教養基礎物理 II	ニュートン力学の体系的な学習を通じて物理学の基礎を理解することを目的とする。教養基礎物理Iにつながる内容として、剛体のつり合い、慣性モーメント、剛体の運動、弾性体・流体力学、および波動現象などをとりあげ、さまざまな物質や現象を物理的に取り扱うための基礎と、その数学的な取り扱い方法を学ぶ。	
基礎科目群	理系共通基礎科目 初等物理 I	高校で物理を履修していない理工系学生を対象とし、ニュートン力学、特に質点の力学の体系的な講義を通じ物理学の基礎の理解を図る。物理学は、理工系の全ての専門分野の研究の基礎となる。本講義では、ニュートン力学を基礎として質点の力学を学ぶとともに、ベクトル、微分、積分を用いた論理的な思考を習得することを目的とする。本講義でカバーする範囲は高校の物理と重複するがその復習では無く、ベクトル、微分・積分を用いた解析が中心になる。	
基礎科目群	理系共通基礎科目 初等物理 II	高校で物理を履修していない理工系学生を対象とし、初等物理 I の内容を引き継いだニュートン力学(剛体の運動、弾性体、波動など)の体系的な講義を通じ、物理学の基礎の理解を図る。本講義の理解には初等物理 I の内容が不可欠である。剛体の運動、弾性体、波動現象などを対象に、質点の力学で学んだ力学概念を更に発展させ、身近な物質や現象を物理学的に取り扱うための基本概念を理解し習得することを目的とする。あわせて必要となる基礎的な数学とそれを適用する手法を学ぶ。	
基礎科目群	理系共通基礎科目 専門基礎物理 I	「基礎物理I」は、「教養基礎物理I、II」で学んだ力学とともに物理学の主要な基礎的科目のひとつである電磁気学を対象とする。静電場、電位、導体、電流、静磁場、電磁誘導などを学び、マクスウェル方程式とその解である電磁波に至る。電磁気学を理解するために必要となる数学についても講義の中で必要に応じて解説する。また必要に応じて、理解度を深めるために問題を解くレポート、中間試験などを課す。教養基礎物理I、IIを履修していることが望ましい。	
基礎科目群	理系共通基礎科目 専門基礎物理 II	専門基礎物理Iに引き続き、古典物理学の重要な柱の一つである熱力学と気体分子運動論、統計力学の概要、ならびに現代物理学への入門として、量子論および量子力学の基本概念を学ぶ。具体的な内容は、温度と熱、気体分子運動論、熱力学の諸法則、熱力学の実用、統計力学の基礎、量子論と量子力学入門など。理解を助けるために問題を解くレポート、中間試験などを課す。教養基礎物理I、IIを履修していることが望ましい。	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目	物理学概説 I	物理学は自然科学の中で最も基礎的な学問の一つであり、その成果や手法が自然科学の他の分野や工学に広く応用される。我々が日常体験する様々な現象を理解するためにも、物理学の知識が必要である。「物理学概説I、II」では、力学、電磁気学を初めとする物理学全般を体系的に学び、物理学の基礎知識を総合的に身につけることをめざす。「物理学概説I」の内容は、運動の法則、質点の力学、連続体の力学、波動、熱力学基礎をカバーする。
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目	物理学概説 II	物理学は自然科学の中で最も基礎的な学問の一つであり、その成果や手法が自然科学の他の分野や工学に広く応用される。我々が日常体験する様々な現象を理解するためにも、物理学の知識が必要である。「物理学概説I、II」では、力学、電磁気学を初めとする物理学全般を体系的に学び、物理学の基礎知識を総合的に身につけることをめざす。「物理学概説II」の内容は、電磁気学を中心に、現代物理学(統計力学基礎、量子論基礎等)をカバーする。
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目	物理通論 I	日常生活や自然界で見られる現象を物理的な観点で理解することを学び、物理的なものの考え方を養うことを目的とする。そして、巨視的(マクロ)な現象をとりあげて、そこに働いている物理法則を理解し、それを応用する能力を身につけられるような講義をする。物理通論IとIIを通して受講することで基礎物理学の全体を一貫して学べるような内容としている。具体的には、力学を中心に、剛体、弾性体、波動までの基礎を講義する。高等学校で物理を履修した学生を対象とし、適宜レポート課題を課す。
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目	物理通論 II	日常生活や自然界で見られる現象を物理的な観点で理解することを学び、物理的なものの考え方を養うことを目的とする。そして、巨視的(マクロ)な現象をとりあげて、そこに働いている物理法則を理解し、それを応用する能力を身につけられるような講義をする。物理通論IとIIを通して受講することで基礎物理学の全体を一貫して学べるような内容としている。具体的には、熱力学、電磁気学を中心とした講義を行う。高等学校で物理を履修した学生を対象とし、適宜レポート課題を課す。
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目	物理学実験第一	物理学の基礎的な実験を行う。物理学の教科書に出てくる物理現象や物理量が、実際にはどのように観測され、測定されるのかを、自ら実験することによって体得する。したがって、基礎的な計器の扱い方、有効数字の扱い方、誤差の求め方などを修得することが大切である。内容：ノギスとマイクロメーター、オシロスコープ、重力加速度、CR回路の時定数、電気抵抗、弦の振動、電磁波、ニュートン環、分光計、光電効果等、パソコンと遊ぼう等。
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目	化学概説 I	有機化学の入門コースで、化学コース以外の学生を対象とする。有機化学は私達の生活に密接なかかわりをもっている。人のからだは主に有機化合物によって作られており、また私達の周りには有機化合物によって取り囲まれている。有機化合物は人類にとって必須であるが、一方、環境問題の原因になることもある。この講義の目的は、有機化学の基本を修得することによって、その社会的な応用と生体における機能を理解する素地をつくることにある。
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目	化学概説 II	無機、分析化学に関する入門コースで、化学コース以外の学生を対象とする。我々の周囲には、あらゆる化学物質が存在するが、その性質は構成する元素によって規定される。本講義では、無機元素及びその化合物に関する基本的な知識を深めることを目標とする。又、様々な物質中でそれぞれの元素がどれだけの濃度を示すかといったことは、その物質の性質や起源を知る上でも極めて重要である。こうした元素の濃度測定(定量)に必要な分析化学的手法についても触れる。
基礎 科目 群	理系 共通 基礎 科目	一般化学 I	化学コース以外の学生向けのクラスである。原子・分子の構造および化学結合の性質に関する基本概念を習得することを目標とする。(1) 量子力学と原子構造(古典論の破綻・シュレディンガー方程式・一次元の箱の中の粒子・水素原子・多電子原子の電子配置と周期表)、(2) 化学結合(分子軌道法・水素分子イオン・水素分子・2原子分子・化学結合の方向性・混成軌道・多重結合・ $\pi$ 電子近似・化学結合の種類・分子間相互作用)(3) 分子運動と分子スペクトル(分子運動のエネルギー・振動および回転スペクトル・電子スペクトル)

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目 目群	理系 共通 基礎 科目 目  一般化学Ⅱ	化学コース以外の学生向けのクラスである。原子や分子の集合体の構造と性質(状態とその変化、化学平衡など)に関する基本概念を習得することを目標とする。(1) 固体の構造(結晶の対称性と空間格子他) (2) 気体の性質と気体分子運動論(状態方程式、Boltzmann分布) (3) 熱力学の基本法則(熱力学第一法則、熱力学第二法則) (4) 化学反応速度論(反応速度式他) (5) 相平衡(相平衡と相律他) (6) 化学平衡(化学平衡と平衡定数他)	
基礎 科目 目群	理系 共通 基礎 科目 目  化学実験	化学の基礎的な実験を行い、化学物質の基本的性質や法則および理論など化学の基礎知識に基づいて、化学物質の基本的取り扱いを学ぶ。化学物質をどのように合成、分離精製、同定、定量するか、またそれらの物性をどのように測定するのかを修得する。1:陽イオンのセミマイクロ定性分析 2:容量分析 3:二成分系の相互溶解度 4:カルボン酸の活性炭への吸着 5:反応速度の測定 6:濃淡電池の起電力 7:ジアゾ化反応とアゾ染料の合成 8:天然有機化合物の抽出と生成 9:コンピュータ実習  オムニバス方式(全15回) (272 稲垣昭子, 279 田岡万悟/1回) 全体説明, 安全教育 他 (117 杉浦健一, 118 竹川暢之, 273 大浦泰嗣, 274 久富木志郎, 380 三澤健太郎, 375 芝本幸平, 370 秋山和彦, 376 白井直樹/5回) 定性分析, 容量分析 他 (114 伊藤隆, 119 野村琴広, 116 清水敏夫, 121 廣田耕志, 281 三島正規, 280 西長亨, 277 佐藤総一, 373 池谷鉄兵, 377 末木俊輔, 378 平林一徳, 371 阿部拓也/4回) ジアゾ化反応, アゾ染料, 天然有機化合物 他 (115 菊地耕一, 120 波田雅彦, 276 兒玉健, 275 好村滋行, 374 川端庸平, 379 松本淳, 372 阿部穰里/5回) 相互溶解度, 吸着, 反応速度, 電池, コンピュータ実習 他	オムニバス方式・ 共同
基礎 科目 目群	理系 共通 基礎 科目 目  一般生物学Ⅰ	高等学校で生物を未履修の学生を対象に、生物学全般について、身近で具体的な例を多くあげながら、その一方で最新の研究成果にも一部触れつつ平易に解説する。  オムニバス方式(全15回) (124 加藤潤一/8回) 遺伝子の構造、染色体の複製機構、遺伝子の発現機構 他 (128 村上哲明/7回) マクロレベルでみた生命、系統進化、性の進化的意義、種とは何か 他  オムニバス方式(全15回) (291 春田伸/8回) 細胞の構造、遺伝の仕組み、タンパク質の働き 他 (286 鐘ヶ江健/7回) 植物の環境応答、植物の光反応、花成誘導 他	オムニバス方式
基礎 科目 目群	理系 共通 基礎 科目 目  一般生物学Ⅱ	本講義は、高等学校で生物が未履修の学生を対象とする。本講義では、生物の行動やその物質的基盤について学ぶことを通じて、生命への関心を深め、その仕組みについて洞察する力を養う。まず、動物の神経系の機能と役割を概説し、本能行動や獲得行動が神経系により支配される仕組みの基礎、および、動物と環境とのかかわりについて習得する。さらに、生命の基本物質であるDNA、RNA、タンパク質の構造や機能の基礎的な知見を概説するとともに、生物の基本単位である細胞の成り立ちなどについて解説する。  オムニバス方式(全15回) (288 坂井貴臣/8回) 動物の神経系の機能と役割、本能行動および獲得行動、神経系、動物と環境とのかかわり 他 (123 岡本龍史/7回) 核酸の構造と機能、タンパク質の構造と機能、細胞の成り立ち 他	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（法学部 法学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群	理系共通基礎科目 生物学実験入門1	夏期休業期間に集中で実施する、生命科学コース以外の学生を対象とした生物学に関する実習であり、生物の基礎的知識、研究技術ならびに生物材料の取り扱いを習得させる。生物学実験入門2とともに、生物の取り扱いに習熟し、生物学の基礎的知識、研究技術ならびに生物材料の取り扱いの習得を目標とする。生物学実験入門1では以下のような課題についての実習を行う。 オムニバス方式（全7回） (386 古川聡子／1回) 顕微鏡使用法の基礎 (128 村上哲明／1回) 細胞含有物の観察 (286 鐘ヶ江健／1回) 細胞分裂の観察 (127 林文男／1回) キャンパスの自然；系統学の基礎 (383 加藤英寿／1回) キャンパスの自然；生態学の基礎 (381 浅田明子／1回) カエルの解剖 (123 岡本龍史／1回) まとめ	オムニバス方式 集中
基礎科目群	理系共通基礎科目 生物学実験入門2	夏期休業期間に集中で実施する、生命科学コース以外の学生を対象とした生物学に関する実習であり、生物の基礎的知識、研究技術ならびに生物材料の取り扱いを習得させる。生物学実験入門2とともに、生物の取り扱いに習熟し、生物学の基礎的知識、研究技術ならびに生物材料の取り扱いの習得を目標とする。生物学実験入門1では以下のような課題についての実習を行う。 オムニバス方式（全7回） (125 川原裕之／1回) 薄層クロマトグラフィーによる物質の分離 (384 齋藤太郎／1回) タンパク質の分離・定量 (387 横田直人／1回) 酵素反応の解析 (382 朝野維起／1回) プラスミドDNAの解析 (288 坂井貴臣（H32まで108 相垣敏郎）／1回) ショウジョウバエの交配 (285 角川洋子／1回) コンピューターによるデータ解析 (123 岡本龍史／1回) まとめ	オムニバス方式 集中
基礎科目群	理系共通基礎科目 生物学概説ⅠA	生命科学科以外の理学部の学生を主な対象として、生物学全般にわたり基礎的な考え方を概説する。教職課程の理科の免許を取得するために必要な科目でもある。  オムニバス方式（全15回） (283 江口克之／8回) 生物学的種概念、動物における種形成、動物の学名と分類体系、地理的分布 他 (284 得平茂樹／7回) 細胞の構造、解糖とエネルギー、光合成 他  オムニバス方式（全15回） (288 坂井貴臣（H32まで108 相垣敏郎）／7回) 細胞や組織の構造と機能、生物個体の生命現象 他 (124 加藤潤一／8回) 遺伝子の構造、染色体の複製機構、遺伝子の発現機構 他	オムニバス方式
基礎科目群	理系共通基礎科目 生物学概説ⅡA	生命科学科以外の理学部の学生を対象として、生物学全般にわたり基礎的な考え方を概説する。教職課程の、理科の免許を取得するための科目でもある。 なお、以下の教員はオムニバス方式で授業を行う。 オムニバス方式（全15回） (286 鐘ヶ江健／7回) 環境情報と形態形成、環境情報のセンシング機構、概日リズム 他 (290 高橋文／8回) 生物の多様性と進化、遺伝の仕組み、遺伝子と染色体 他	一部オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
（法学部 法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目 群	保健 体育 科目  身体運動学	大都市の生活環境に起因する運動不足や生活習慣病への対応を含め、心身ともに調和のとれた全人的な人間として健康的で豊かな学生生活を送るために必要な、身体、身体運動、スポーツ文化に関する基礎的な「身体の教養」への理解を深めることを目的とする。内容として、正しいダイエット法や性行為感染症（STD）の啓発、トレーニング理論など、生涯にわたって健康的な運動・スポーツ生活を実践していくために必要な基礎的理論を学習することによって、総合的な「理論知」の習得を目指す。	
基礎 科目 群	保健 体育 科目  身体運動演習	身体運動に関する基礎的な理論の習得と並行して、その理論を演繹的に、かつ実践的に学習していくことを目的とする。学生たちが自己の身体や運動能力を測定して身体データ情報の分析・解釈を行うことによって、自分自身の課題を発見しそれらを解決していくために主体的に運動・スポーツ実践を行えるように配慮することを主眼とする。運動と栄養、コンディショニング、トレーニングの理論と実際など、理論と実践の統合的学習によって、身体運動学の応用的・演繹的な「実践知」の習得を目指す。	
基礎 科目 群	保健 体育 科目  スポーツ実習	学生たちが自らの身体に関する実験や運動・スポーツを実践することによって、実際の状況から問題を発見し、それらを解決する理論を体験的に学ぶ課題解決型の実習を行うことを目的とする。内容として、生涯スポーツ実践、コンディショニング設計、健康栄養実習、トレーニング設計などを含め、学内・学外において学生たち自らのニーズに応じて、自主的、実践的に健康的な運動・スポーツ活動を行うことによって獲得する実践知や体験知をもとに、それらを体系立て理論的に総合化し、帰納的な「身体知」の習得を目指す。	
基礎 科目 群	キャ リア 教育 科目  キャリア形成	日本の雇用・労働システムについて既存研究にもとづく基本的な知識を習得する。具体的には大学在学時の就職活動から入職後の組織適応といった初期キャリア、就職後の企業内外における職業能力の開発、仕事からの引退プロセスといった論点に加え、賃金、解雇・退職といった論点に関する講義を行う。これにより学生たちが、就職から退職までの日本の雇用・労働システムのあり方について理解し、大学を卒業したあとの将来のキャリア形成について、大学在学中に適切に構想するための基礎を構築することを目指す。	
基礎 科目 群	キャ リア 教育 科目  キャリア形成演習	日本の雇用・労働システムについてワークショップやクラス討論を用いた双方向形式の講義を行う。これを通じ、職業生涯におけるキャリア形成の様々な場面で遭遇する問題の解決にあたり、雇用・労働に関する基本的な知識を活用しながら、状況を適切に評価して意志決定できるようになることを目指す。また、キャリア形成に関する周囲の人々の考えから、自分の考えを批判的に内省してよりよいものに修正できることや、キャリア形成に関する自分の考えを他者に理解できるよう説明して、他者が考えを修正することに貢献できるようになることも目指す。	
基盤 科目 群	キャ リア 教育 科目  学びのデザイン：理論と実践	職場や家庭など公教育以外の場を含む学習・教育の理論を学び、それを学生自身が実践できるようになることを目的とした授業である。学習成果として、第一に自らの環境や動機に合わせた学習計画を立てられるようになること、第二に、学生が興味関心を持つことを題材に効果的な教授設計ができるようになることを達成する。具体的には、インストラクショナルデザイン、学習環境デザイン、自己調整学習、成人学習等の諸理論を学び、それに基づいたテスト・教材・授業案を設計・開発する。	
基礎 科目 群	キャ リア 教育 科目  現場体験型インターンシップ	さまざまな課題を抱える大都市東京での現場体験を通じて、大学生生活の早い時期に自分自身及び社会の課題についての認識を深め、課題に主体的に取り組む意識と責任感、社会人として必要な基礎的コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。単位修得に当たっては、事前学習への出席及び実習先に関する事前調査シートの提出、夏季休業期間中に行う実働5日以上10日以内の職場実習及び実習録・成果報告書の提出を必要とする。	実験・実習40時間 講義21時間

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目群	キャリア 教育科目	国際交流概論  この授業では、国際交流や異文化との接触・理解についての理論と事例研究を学び、国際的に人が交流する場で起こりうる文化や言語の問題について考え、在学中の留学ならびに将来の海外訪問・滞在に役立つ能力を身につけることを目的とする。  オムニバス方式(全15回) (196 助川泰彦/5回) 在留外国人の文化接触、異文化体験と外国語の習得 他 (364 岡村郁子/5回) 留学とキャリア形成、危機管理 他 (365 小柳志津/5回) 海外滞在と心理的影響、文化規範 他	オムニバス方式
教養 科目群	都市・ 社会・ 環境	アジア・アフリカ社会論  本授業では、毎年度、授業担当者の問題関心やフィールドワーク経験をふまえ、アジア、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパなど世界各地の人間社会がかかえる現実的諸問題を主要なテーマとしてとりあげ、多角的な視点から解説・議論することをねらいとしている。文化・社会人類学の授業科目とは異なり、学説史や理論の習得ではなく、個別具体的な事例の紹介や異文化理解の実践に重点を置き、フィールドワークや民族誌的資料の重要性を知ることが目標としている。  オムニバス方式(全15回) (33 綾部真雄/4回) フィールドから/フィールドへ 他 (198 田沼幸子/4回) 映像を撮る 他 (199 深山直子/3回) 先住民運動を考える 他 (197 石田慎一郎/4回) 諍いを考える 他	オムニバス方式
教養 科目群	都市・ 社会・ 環境	社会と福祉  社会福祉とは何か、社会福祉の生成・展開について学んだ上で、現実にながれわれの身の回りで生起している事象(貧困問題の諸相、障がいとともに自分らしく生きるとは、子どもの育ちと福祉、社会福祉サービス利用者の権利は保障されているか等)をとりあげつつ、社会福祉を利用する人びとの視点から、社会福祉の現状と課題について考える。	隔年
教養 科目群	都市・ 社会・ 環境	生活と福祉  現代日本人の日々の生活とも関係するさまざまな社会問題を、社会福祉の観点から取り上げながら、社会福祉のあり方について考える。開講年度ごとに、取り上げる中心的テーマを設定する。現代社会における社会福祉に関わる諸問題への理解とともに、社会福祉の基本的な考え方の習得を目指す。	隔年
教養 科目群	都市・ 社会・ 環境	情報社会と法  今日の情報通信技術(ICT)の急速な発展は、われわれの生活、経済、社会制度に大きな影響を与えている。これに伴い、従来とは性質の異なる新たな問題も多く発生し、法的な対応も迫られるに至っている。本講義は、情報化の進展によって発生した問題をいくつか取り上げ、その現状とそれに対する法制度について概略する。ICTの急速な発展に伴って発生した具体的な問題状況を把握するとともに、それに対して、法がどのように対応しているのか、また、今後いかなる対応が必要なのか、法制度の現状と法的論点について理解を深めることを目的とする。	
教養 科目群	都市・ 社会・ 環境	日本国憲法  日本国憲法を基礎付ける原理・概念、日本国憲法が採用する原理・立場、そして実際の国政ないし判例においてかかる原理・概念がどのように解釈・運用されているかについて講義を行う。日本国憲法を基礎付ける原理・概念および日本国憲法が採用する原理・立場の理解を前提に、実際の国政ないし判例においてかかる原理がどのように解釈・運用されているかについての基本的な理解を得ることを目標とする。法学系推奨科目としても開講する。	
教養 科目群	都市・ 社会・ 環境	都庁の仕組みと仕事  毎回異なる東京都の実務担当者を招き、都政が直面する課題やそれに対する所属部局の施策について、学部学生向けに具体的に説明してもらった講義である。東京都をはじめとする自治体の職員を志望する学生に、都政や自治の現場が抱える課題を認識してもらおうと同時に、関連する専門教育科目の理解を深めてもらうことを目的とする。具体的内容については、様々な専攻の学生が理解できるように、依頼する部局とテーマを調整する。授業運営と成績評価は、法学科政治学コースの担当教員が行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群 都市・社会・環境	官庁の仕組みと仕事	毎回異なる中央府省の職員（東京都立大学・首都大学東京の卒業生）を招き、各府省が直面する課題や所属部局の施策について、学部学生向けに具体的に説明してもらった講義である。将来、国家公務員を志望する学生に、府省の現場が抱える課題を認識してもらおうと同時に、関連する専門教育科目の理解を深めてもらうことを目的とする。具体的内容については、様々な専攻の学生が理解できるように、外部講師とテーマを調整する。授業運営と成績評価は、法学科政治学コースの担当教員が行う。	
教養科目群 都市・社会・環境	生態と環境	In this course, we will explore the biological and non-biological components of environments, with the goal of understanding how these influence the distribution, abundance, and activity of organisms. We will also consider the role of individuals to population and communities.  この講義では、生物学および非生物学的な環境構成要素について理解を深めることを主な目的とする。さらに、それらが様々な生物の分布・豊富さ・活動にどのように影響を及ぼすか、理解する。	
教養科目群 都市・社会・環境	動物の生態と多様性	It is extremely important that we understand and conserve biological diversity. Three main topics in the class are 1) Diversity of species in animals and processes of diversification. 2) Origin of animals, characteristics in major animal phyla. 3) Relationship between environment on earth and geographical distribution of animals.  多様性を理解し保全することは重要な課題である。この講義では主に、①動物の種多様性とそれを生み出すプロセス、②動物の起源、動物界の主要な系統群の形態学的、生態学的特徴、③地球環境の変動と動物の地理的分布の関係について解説する。	
教養科目群 都市・社会・環境	自然と社会と文化	東京都には、広大な海洋とそこに点在する多数の特徴的な島々がある。たとえば伊豆大島は三原山をはじめとする豊かな自然と美しい海洋環境を持つとともに、長い歴史と特徴ある民俗・文化を有している。本講義の中心は伊豆大島、八丈島、小笠原などの学外をキャンパスとして集中形式で実施され、都市と島嶼を対比させながら社会・文化、民俗、歴史を実地に見聞し、観察、調査、体験しその特徴を理解するとともに、海洋、火山を中心とした自然環境とそこに生きる生物の観察を通して地球と生命の歴史への理解を深める。	集中
教養科目群 都市・社会・環境	都市政策科学概論	東京を含めた現代の都市が直面する環境、高齢化・健康・福祉、産業、防災、多様な人々の共生等の多様な都市問題を、理論的に接近し実践的に解決していくための考え方である「都市に関する政策科学」について講義をする。具体的には、制度、空間、社会の3つの基本的視点それぞれの理論、現状、論点等に関して講義を行い、都市づくりに必要となる“プランニング力”の基礎的な知見の修得を目指す。	
教養科目群 都市・社会・環境	地域環境の人文地理	地域において自然環境と社会文化がどのように関わっているかを、日本の諸地方の実際の具体例に基づいて見ていく。その際、概念や定義や法則ではなく、自分自身の感覚で、疑問を持ち、積極的に工夫し、想像力や創造性を高めていくことを重視する。既成の概念にとらわれず、地理学的・地誌学的アプローチの幅を広げるような見方を習得することを目指す。	
教養科目群 都市・社会・環境	都市空間の人文地理	東京大都市圏の事例を中心に、地方都市の事例も交えながら、さまざまな人文地理学的現象について概説する。それにより、1) 現代の都市とそれを取り囲むさまざまな環境に対する思考を深めること、2) データの適切な解釈の仕方を身につけること、の2点を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群 都市・社会・環境	都市の技術	<p>(授業方針・テーマ) 都市に関わる様々な問題の基本的な考え方と、そこに使われる技術や手法について、具体的な例も挙げながら講義する。都市問題の解決に関わる話題を幅広く提供するため、オムニバス方式の講義を行う。</p> <p>(授業計画・内容：オムニバス方式／全15回)</p> <p>(297 石倉智樹/2回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 都市を考える (301 横山勝英/2回)</li> <li>2. 都市を育む (296 荒井康裕/2回)</li> <li>3. 都市を活かす (298 上野敦/1回, 300 中村一史/1回, 136 村越潤/1回)</li> <li>4. 都市を造る (302 吉嶺充俊/2回)</li> <li>5. 都市を支える (297 石倉智樹/1回, 135 小根山裕之/1回)</li> <li>6. 都市を営む (302 吉嶺充俊/1回, 299 小田義也/1回)</li> <li>7. 都市を守る</li> </ol>	オムニバス方式
教養科目群 都市・社会・環境	エネルギー化学入門	<p>大都市において重要な課題である環境問題ならびにエネルギーの在り方について、特に材料の観点から理解を深めさせる。持続可能社会の実現に向けた未来型エネルギーシステムの技術について解説する。代表的な未来型エネルギーシステムとして人工光合成、有機太陽電池、リチウム電池、燃料電池、バイオマス燃料等を取り上げ、その基礎原理を講義する。さらに、未来型エネルギーシステムに対する取り組みの現状、最新の研究成果ならびに課題を概説し、今後の展開について考える力を養う。</p> <p>オムニバス方式 (全15回)</p> <p>(147 宍戸哲也/6回)</p> <p>担当範囲：第1回. 講義ガイダンスならびに環境問題の概観 第2回. エネルギー変換技術の概観 第1 2回. 燃料電池の意義と問題点 第1 3～1 4回. 水素エネルギー利用のための水素製造法 第1 5回. まとめ (146 久保由治/3回)</p> <p>担当範囲：第3～5回. 有機太陽電池のしくみとこれから (149 高木慎介/3回)</p> <p>担当範囲：第6回. 太陽光エネルギーとエネルギー変換 第7～8回. 光合成と人工光合成 (144 金村聖志/3回)</p> <p>担当範囲：第9回. 蓄エネルギーシステムの意義と電池今昔物語 第1 0回. 蓄電池の中味と電気化学反応 第1 1回. 電池材料の最先端</p>	オムニバス方式
教養科目群 都市・社会・環境	環境調和化学入門	<p>科学技術の進歩により人類の生活が豊かになった反面、さまざまな環境問題が起こるようになった。これらの課題を解決し、持続可能な社会を構築するためには、状況の正しい把握と化学的知見に基づく対応が必要になる。この講義では現在人類が直面しているさまざまな環境問題について地球化学的視点から解説する。また、都市における環境問題を、世界有数の大都市である東京を主な題材としてエネルギーと物質の観点から講義し、都市環境と調和した科学技術の発展を考える。</p> <p>オムニバス方式 (全15回)</p> <p>(308 加藤俊吾/8回)</p> <p>担当範囲：第1回～第7回 ガイダンス、地球の姿、都市大気汚染、酸性雨、オゾン層、地球温暖化、海の化学 第15回 まとめ</p> <p>(307 梶原浩一/8回)</p> <p>担当範囲：第8回～第14回 都市のエネルギー消費、物質とエネルギーのバランスシート、ごみ排出量、産業廃棄物と一般廃棄物、清掃工場と最終処分場、海外のエネルギー政策・リサイクル政策と現状、原子力発電、これからのエネルギー関連技術 第15回 まとめ</p>	オムニバス方式、一部共同

授 業 科 目 の 概 要			
（法学部 法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 科目群	都市・ 社会・ 環境	<p>観光科学概論</p> <p>学問としてのツーリズムの基本的理念と考え方・方法論を学ぶ。具体的には、ツーリズムは地域の自然や環境、あるいは歴史・文化・生活など、様々な資源を生かして展開されているため、自然環境資源や地域・都市の文化資源をツーリズム振興に適正に活用していくための方法について、時事問題や比較文化論も織り交ぜながら広範に論じる。本講義は都市環境学部自然・文化ツーリズムコースに所属する常勤教授・准教授がオムニバスで提供する。 オムニバス方式（全15回）                      (311 岡村祐／3回) 担当範囲：第1回～第2回、第15回                      ガイダンス／東京の歴史的・文化的観光資源／まとめと議論                      (152 清水哲夫／2回) 担当範囲：第3回～第4回                      観光とモビリティ／観光と地域経済                      (150 川原 晋／2回) 担当範囲：第5回～第6回                      観光とまちづくり：歴史的資源の活用／観光と都市空間：活動の舞台づくり                      (151 菊地俊夫／2回) 担当範囲：第7回～第8回                      ユーカリの森の保全と適正利用／フードツーリズム                      (314 沼田真也／2回) 担当範囲：第9回～第10回                      自然ツーリズム入門：生態学の視点から／東京の世界遺産：小笠原                      (312 倉田陽平／2回) 担当範囲：第11回～第12回                      ゲーミフィケーションと観光／旅行者自身が創り発信する観光                      (313 直井岳人／2回) 担当範囲：第13回～第14回                      観光地イメージを伝える情報／観光者が知覚する観光地イメージ</p>	オムニバス方式
教養 科目群	都市・ 社会・ 環境	<p>社会と経営</p> <p>グローバル化に伴う、企業間競争や雇用システムといった、新しい経営環境の変化について、その動向と諸問題を理解し、経済システムとしての企業変化が、私たちの社会システム(社会保障システムや国際関係等)に与える影響について学びます。特に情報技術、その応用と、社会システムの再編との関係に注目し、新しい動向を知ること、就職やキャリアを考える為の基礎的な知識を習得を目指します。</p>	
教養 科目群	都市・ 社会・ 環境	<p>特定社会活動</p> <p>学生が(独)国際協力機構が実施する「青年海外協力隊」の派遣事業へ参加することにより、大都市をはじめ広く国内外で活躍する人材に成長し、さらに当該活動の経験により、学生が大学における学習を深め、学習への動機付けを強化することを目的としている。単位の認定にあたっては、担当教員による事前・事後研修及び実習報告書の審査を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 科目 群	都市・ 社会・ 環境	<p>Tourism is a composite of people, resources and businesses, which provide tourists with experiences that cannot be sought in their daily lives and also entails various impacts on visited environments. This module aims to offer students a scientific perspective of tourism management. Students will be able to understand how to keep a good balance between tourism promotion and conservation with appropriate use of natural and cultural resources, transportation and information.</p> <p>観光は人・資源・ビジネスの複合物であり、観光者に日常生活では求めることができない経験を提供するとともに、観光地に様々な影響をもたらす。この科目では、受講生に観光マネジメントへの科学的視点を提供する。この科目により、学生は、観光振興と、自然的・文化的資源、交通、情報の適切な使用による資源保護との、よいバランスを保つ方法を理解することができる。</p> <p>オムニバス方式（全15回）                      (313 直井岳人/9回) 担当範囲：第1回～第7回、第14回～第15回                      1. ガイダンス/2. ツーリズムの定義と関連概念/3. ツーリズムの特徴/                      4. 観光需要/5. 観光資源とその特徴/6. 観光のまなざしの生成                      7. 観光者による観光地評価の分析                      14. 観光科学の貢献/15. 試験とまとめ                      (152 清水哲夫/1回) 担当範囲：8. 観光交通計画とマネジメント                      (150 川原 晋/1回) 担当範囲：9. 観光まちづくり                      (311 岡村 祐/1回) 担当範囲：10. 歴史的・文化的資源の保全と観光活用                      (151 菊地俊夫/1回) 担当範囲：11. 観光における農村開発とマネジメント                      (314 沼田真也/1回) 担当範囲：12. 野生動物ツーリズムの可能性                      (312 倉田陽平/1回) 担当範囲：13. モバイル通信のための観光情報サービスと観光行動分析</p>	オムニバス方式
教養 科目 群	都市・ 社会・ 環境	<p>本学が有する松木日向緑地を題材にして、「里地里山の生態系」、「多摩の歴史」、「都市化の問題」、「生物多様性の保全」、および「環境資源の適正な利用と活用」をキーワードとして、人と自然の関係、現在の環境問題、生物多様性の保全、および緑地空間の多機能性について知識を深め、大都市が抱える諸問題への応用や適応を図る機会とする。</p> <p>オムニバス方式（全15回）                      (314 沼田真也/8回) 担当範囲：第1回～第7回、第15回                      (151 菊地俊夫/8回) 担当範囲：第1回、第8回～第15回                      01 オリエンテーション                      02 多摩地域を中心とした里山の生物相の特徴等                      03 本学緑地を散策しながらイモリ池などの見学や生物の観察等                      04 緑地内の両生類個体群の長期的変遷と多摩地域におけるビオトープの保全や復元等                      05 人類の定住化による居住地周辺の人間と生態系の形成                      06 武蔵野の雑木林集落の里山と近世・近代都市の資源林                      07 緑地観察：横穴墓探訪古墳時代の集落があった南大沢キャンパス                      08 人間生活の変化にともなう里山の植生遷移                      09 余暇空間としての里山の適正保全と管理                      10 里山の地形と地質                      11 暁町緑地保全地区において里山の保全管理を学ぶ                      12 里山の生業と土壌のかかわり                      13 現地観察：多摩丘陵の地形地質                      14 成果報告会                      15 まとめ</p>	オムニバス方式、 一部共同 講義27時間 実験・実習3時間

授 業 科 目 の 概 要			
（法学部 法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 科目群	文化・芸術・歴史  社会意識と社会構造	現代の都市社会においては人と人との身体的な接触よりも、メディアを介した情報の交換や相互作用が非常に大きな比重を占めるようになってきている。そのようなメディアやうわさが大衆の心理や様々な社会集団に与える影響とそれにともなっている様々な社会現象に対する理解は、都市社会を生きる現代人にとっては必須の教養といえる。この講義では社会学的なメディア研究の蓄積に関する基礎的な理解を深めた上で、現代社会における大衆心理とメディア現象を具体的な出来事を通じて理解していくことを目指していく。	
教養 科目群	文化・芸術・歴史  心の哲学	本講義は、心をめぐる哲学的諸問題の考察を通じて、私たちが日ごろ慣れ親しんでいる心というもの、実は重要な問題を含むものであることを知り、心の概念への理解を深めることを目的とする。そのためにまず、心身問題や他我問題のような典型的な問題を考察することを通して問題の所在を明確に把握することが必要となるが、講義ではそのようなテーマ的アプローチによる導入を行なうとともに、古代、中世、近世にわたって蓄積されてきた議論を踏まえ、過去の代表的な哲学者が心の問題をどのように捉え、また解答を与えてきたのかといった哲学史的観点からのアプローチを試みる。	
教養 科目群	文化・芸術・歴史  西洋古典学A	西洋古典文学のうち、ギリシア文学の主要な作品について概説する。歴史的・文化的背景や後世への影響についても検討する。ギリシア文学の場合には、先行作品からの影響が極めて重要であるため、同一ジャンル内、またはジャンルを越えた先行作品の伝統の継承とそれに対する革新に注目する必要がある。授業では主に具体的な作品のテキストの翻訳を用いて、しばしば原典における表現（措辞・語法、修辞や文体など）の問題も含めて、その特質を解説することを主眼とする。	隔年
教養 科目群	文化・芸術・歴史  西洋古典学B	西洋古典文学のうち、ローマ文学（ラテン文学）の主要な作品について概説する。歴史的・文化的背景や後世への影響についても検討する。ラテン文学の場合には特にギリシア文化・文学からの影響が無視できぬ重要性を持つことから、しばしばギリシア文学とその伝統からの影響関係や、その中でラテン文学の独自性という点に注目する必要がある。授業では主に具体的な作品のテキストの翻訳を用いて、しばしば原典における表現（措辞・語法、修辞や文体など）の問題も含めて、その特質を解説することを主眼とする。	隔年
教養 科目群	文化・芸術・歴史  都市の歴史	都市は人類が社会的な生活を行うなかでつくられ、経済、政治の中心として機能した。この授業では、都市の形成・展開を日本と諸外国の事例を取り上げながらみていきたい。都市を分析するには、いろいろな学問の方法によるアプローチが可能である。文系の学問だけではなく、理系の学問、それに両者の融合によることもある。特にこの授業では、歴史学という学問の方法によって、都市を分析するとはどのようなことなのかということ念頭において講義する予定である。	隔年
教養 科目群	文化・芸術・歴史  日本の歴史と社会・文化	日本の歴史について、担当する教員の専門とする時代に特有の研究視点や史料を踏まえながら、教養科目として学ぶべきテーマについて、実際の歴史研究の手法に触れながら、検討していくこととする。具体的には、政治・法律・経済や戦争など社会を検討する上で根幹となる歴史事象を対象として、研究の現状を確認した上で、各時代の社会のありかたや、それに基づいて形作られる文化的事象について、歴史学的な手法での見方を学ぶこととする。	
教養 科目群	文化・芸術・歴史  西洋の歴史と社会・文化	古代から現代にいたるヨーロッパの歴史について、政治や経済の変化だけでなく社会や文化の変容も視野に入れながら、古代・中世・近現代の時代の変化の歴史的意義を考察する。講義では、古代史・中世史・近現代史における具体的な歴史事象を取り上げながらヨーロッパ世界の形成と発展についての知識を提供するとともに、歴史的思考を習得することを目的とする。西洋史の基礎知識は事前にはとくに必要としないが、歴史学に関心を持って参加することを期待する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 科目群	文化・芸術・歴史 アジアの歴史と社会・文化	古代から中世・近世を経て近現代へと至るアジア社会の変化を、最新の歴史学の成果を踏まえながら、国際関係・政治・経済・人々の暮らし・思想・科学技術など多角的な視野から検討する。講義では具体的な歴史事象を取り上げ、アジア社会の形成と発展の歴史的展開を検討するとともに、現代のアジア社会との関係、その連続性と断絶の諸相についても考察する。アジア社会の歴史的展開に関する理解を深めるとともに、歴史的視野から現代社会を考察する力をつける。	
教養 科目群	文化・芸術・歴史 文明と歴史	古代から現代にいたる歴史を、文明をキーワードに追究していく。文明という言葉は、メソポタミア文明、エジプト文明、中央アジア文明、ギリシア文明、ローマ文明、西洋文明、イスラム文明、中国文明、日本文明、中央アメリカ文明など、古今各地の高度な文化に使用されるが、この講義では、これらの文明の中から特定の地域を時代を選び、そこに生きた人々の暮らしなどにもスポットをあてながら、当該地域の文明の特徴を抽出していく。	隔年
教養 科目群	文化・芸術・歴史 歴史学入門	歴史学の入門講座として、実際に史料に基づき事実確認していく手法について学ぶこととする。その方法として、日本史・東洋史・西洋史の教員3人が、それぞれ専門とする日本近世史・イスラム地域史・西洋近現代史について、各時代や地域に特有の史料や視座を踏まえながら、実際の歴史研究のあり方を具体的に紹介し、検討していくこととする。 オムニバス方式(全15回) (74 谷口央/5回) 日本史 (233 前田弘毅/5回) 東洋史 (75 中嶋毅/5回) 西洋史	オムニバス方式
教養 科目群	文化・芸術・歴史 考古学入門	考古学研究に興味をもつ学生に対して、考古学の世界がどのようなものであるか、また考古学へ接近するために必要な基礎知識を提示することを目的とした講義である。講義は、パワーポイントやビデオなどの映像機器を用いて、ビジュアルに進行する。現在、世界の考古学研究では何が問題点となっているのかなど研究の最前線を示しながら、考古学の意義について伝える。	
教養 科目群	文化・芸術・歴史 日本語と日本文学A	日本語を、音声・表記・語彙・文法など可能な限り多様な角度から概観する。年度ごとに設定したテーマに基づき、日本語という言語の特質と魅力を伝えていく。同時に、受講者が日本語学的な視点や発想法に触れる機会とする。扱うテーマとしては以下のようなものが挙げられる。「日本語のデザイン」「日本語の経済性(エコノミー)」「日本語のアート」など。	隔年
教養 科目群	文化・芸術・歴史 日本語と日本文学B	日本古典文学、近現代文学の初歩的な紹介や概説を行って日本文学入門の性格をもたせながら、より専門的な研究に入るための基礎的な知識を講義する。古典文学においては古代神話・万葉集などを中心に、中古においては源氏物語や和歌集、中世文学においては戦記物語や能・狂言など、近世文学においては俳諧・浄瑠璃・歌舞伎・浮世草子・読本・人情本・漢詩文等、近現代文学においては小説・詩・評論等を基軸として、研究の現状や課題について、わかりやすく丁寧に紹介し、日本文学の魅力を伝えることに努める。	隔年
教養 科目群	文化・芸術・歴史 アジアの言語と文化A	中国の人々が築いてきた文化を概観する。伝統的・正統的文化はもちろん、各地域に根ざす民間習俗にも目を配る。さらに現代社会における文化の様相とその変容にも注意し、アクティブな知識が得られるように配慮する。具体的なテーマは、言語、文化、映像、演劇、音楽、儀礼、日常習慣、サブカルチャー、都市論など、多岐にわたる。 オムニバス方式(全15回) 60 大久保明男/5回…中国の文学、現代文化 71 佐々木睦/5回…中国の演劇、映像、アニメ等サブカルチャー 220 荒木典子/5回…中国の言語	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（法学部 法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 科目群	文化・芸術・歴史 アジアの言語と文化B	中国の言語と文化について深く学ぶためには、周縁にも目を向け、広い視野から比較文化的学習をする必要がある。中国は多民族国家であり、モンゴル、チベット、ウイグル等の少数民族の文化に対する理解が欠かせない。また日本を含む周辺の国々の文化の相互比較を通じ、アジアの文化に対する深い知識を習得することを目標とする。	
教養 科目群	文化・芸術・歴史 英語圏の文化	本講義は、イギリスとアメリカを中心とした英語圏の文化に関する総合的・多角的な紹介を行う入門講座である。歴史、文学、美術、映画、音楽などを題材として取り上げながら、つねに文化と社会を相対化できる複眼的な思考と柔軟な精神の涵養を目指す。英語圏の文化の多面的諸相に関する概括的な知識を修得することを目的としつつ、受講生ひとりひとりが異文化理解のあり方について批判的かつ創造的な視座を養うことを目指していく。	
教養 科目群	文化・芸術・歴史 ドイツ語圏の文化	本講義は、ドイツ語圏の文化・歴史・社会の諸事象を取り上げ、それを時系列的に概観することにより、俯瞰的な視点からドイツ語圏文化の持つ多様性を紹介してゆくものである。ドイツ語圏の文化の持つ特性を明らかにすることを通して、受講生が自らが身を置く文化圏の文化・歴史・社会に対する外部からの視線をもって認識する能力を獲得するのを可能にすることを旨とする。	
教養 科目群	文化・芸術・歴史 フランス語圏の文化	本講義は、フランスの社会・文化・歴史などを概観できる、フランスの多様な世界への道案内講義である。講義では、フランスに関する多様なテーマを取りあげながら、この国が培ってきた論理性、批評性、社交性、前衛性といった特質を浮き彫りにする。受講生がフランスの諸事象を考察し理解することで、社会的・文化的・歴史的な比較と分析を通じて、私たちが生きている日本の状況を新しい視点からとらえ直す能力を磨くことが目的である。	
教養 科目群	文化・芸術・歴史 文学概論	本講義のテーマは、アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・中国・日本の代表的な作家や作品（小説・詩・思想など）を鑑賞・分析することで「文学」のさまざまな特性と意義を明らかにすることである。また、「文学」の概括的な理解にとどまらず、作家論、読者論、表象論、文体論、修辞論、物語論、ジャンル論、翻訳論といった各論にも必要に応じて適宜言及される。  オムニバス方式（全15回） （230 西山雄二／3回）フランス語圏の文学 （226 近藤瑞木／3回）日本の文学 （71 佐々木睦／3回）中国の文学 （76 中村英男／3回）英語圏の文学 （235 山本潤／3回）ドイツ語圏の文学	オムニバス方式
教養 科目群	文化・芸術・歴史 表象文化論基礎	表象文化論を学ぶにあたって基礎となる諸概念、および関連する具体的事例についての基礎的知識を習得する。表象文化論は、さまざまな芸術・文化現象を、関連する多様な理論的枠組を援用しつつ、複数の視点から読み解いてゆく学際的な研究分野である。この講義では、それら理論的概念の意味と価値とを、具体的な芸術・文化現象への応用を通じて理解するとともに、この学問分野において鍵となる視座、すなわち「制度」「権力」「身体」「メディア」など複数の角度から芸術・文化を捉えることの重要性を学習する。	
教養 科目群	文化・芸術・歴史 植物の多様性と進化	植物の多様性や進化について、系統進化学的な側面、集団遺伝学的な側面、送粉・繁殖生物学的な側面から解説する。前半では、特に被子植物の送粉様式や繁殖様式に着目しながら、花形態の多様化や雌雄性の分化との関連、繁殖システムの進化などについて紹介する。後半では、最近の遺伝子やDNAレベルでの解析から明らかになった内容も含めて、陸上植物の系統進化やその種多様性、分布、適応進化、さらには生物多様性の適切な保全などについて紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 科目 群	文化・ 芸術・ 歴史  進化生物学	地球上には様々な生物が見られ、それらが相互に複雑な関係を持ちながら暮らしている。こうした複雑な系は一瞬にして作られたわけではなく、進化によって形成されたものである。こうした進化という現象について、この講義では、以下の3点に重点をおいて説明する。生物の進化の基本となる遺伝のしくみを明らかにし、どうして突然変異が起こるのかを説明する。生物の進化のしくみとして、自然選択の作用の仕方を具体的に示す。生物は物理化学的環境だけでなく、生物の相互作用に対して進化することもある。	
教養 科目 群	文化・ 芸術・ 歴史  科学史B	科学史Bは、古生物学や地質学の歴史を通して古代から現代にいたる科学の歴史を概観する。本講義を通じて、16世紀から現代にいたるそれぞれの時代で科学が社会の中でどのように位置づけられていたのか、また、それらの遷移を学ぶことにより、科学の歴史性の理解を深める。さらに、現在の社会における科学の位置付けやその重要性を理解することを目的とする。	
教養 科目 群	文化・ 芸術・ 歴史  日本語と社会と文化	世界で日本語を第二言語・外国語として学んでいる学習者は360万人を超えている。第二言語・外国語としての日本語は、どのような特徴を持ち、言語政策と施策の上で、どのように扱われて、どのように教えられてきたのか、その変遷を探る。さらに日本語学習者の言葉の特徴、そこから分かる社会と文化について、紹介・議論していく。そして日本語教育や日本語でのコミュニケーションから、日本の社会・文化について考える。	
教養 科目 群	文化・ 芸術・ 歴史  Japanese Language and Society	日本語と社会との関係を方言や敬語、言語変化、言語政策といった観点から日本語の社会言語学を英語で学ぶコースである。4ヶ国語で書かれた教科書で次のようなテーマについて考える。江戸時代の小笠原諸島や明治時代の横浜、戦前の台湾などで言語接触が起きた結果どのような言語変種が誕生したか。空間及び時間の両方における言語変化（言語拡張）を見るために使われるグロットグラム調査とはどのようなものか。様々な依頼表現の丁寧さを母語話者にランク付けしてもらった時に、日本語よりも英語の方がどうしてバラつきが見られるか。	
教養 科目 群	文化・ 芸術・ 歴史  The Japanese Language	英語による解説で、日本語の音韻論や形態論、意味論など日本語学の基礎的な知識を学ぶ。日本語の音韻体系や音配列規則、ピッチアクセントを調べる方法論を身につけてから、日本語自他動詞の対立や親族呼称といった体系的言語事象の分析方法を勉強する。この授業の特徴の一つは多数の言語を母語とする受講生が毎年いるので、グループディスカッションの時間に日本語とアジアやヨーロッパの諸言語との共通点や相違点を考えることで日本語の特徴を受講生自身が発見できる点にある。	
教養 科目 群	文化・ 芸術・ 歴史  Global Mindset	This “Global Mindset” course gives you a vocabulary to describe differences and introduces a range of communication skills you can adapt according to the person, culture and situation. This course uses a systems view of communication that combines both a comparative and interpersonal approach to help you develop your global mindset. Students will gain knowledge of key cultural dimensions and communication styles and raise their awareness about their own and others’ preferences.  この「グローバルマインドセット」の授業では、違いを記述する語彙を与え、人・文化・状況に応じて対応できるコミュニケーション能力範囲を紹介します。このコースは、あなたのグローバルな考え方を開発するための対比的で相互的アプローチを組み合わせたコミュニケーションのシステムチックな見方を使用します。学生は鍵となる文化的局面とコミュニケーションのスタイルに関する知識を獲得し、自分と他人の選好に関する認識を高めます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群 文化・芸術・歴史	Intercultural Communication and Interaction	<p>This class adopts several different approaches: The lectures will cover the basics theories of intercultural communication and cultural contacts from an interdisciplinary viewpoint. Your active participation in the discussions is required. Group project with members from different cultural backgrounds is the main tasks of this class. Each group investigates their chosen topic related to Japanese society using fieldwork, interviews and/or surveys. A final presentation in English will be expected. Collaborative online classes with universities overseas and/or group works with classmates will be conducted.</p> <p>このクラスでは、いくつかの異なるアプローチを採用しています。講義では、学際的な視点から、異文化コミュニケーションと異文化接触の基本理論をカバーします。議論に積極的な参加が必要です。異なる文化的背景を持つメンバーとグループを構成して行うプロジェクトは、このクラスの主要なタスクです。各グループは、フィールドワーク、インタビュー、アンケートを使用して日本の社会に関連する、選択したトピックを調査します。英語での最終プレゼンテーションが期待されます。海外の大学との協同のオンライン授業やクラスメートとグループワークを行います。</p>	
教養科目群 文化・芸術・歴史	生活の心理学	<p>現代社会で生じる様々な問題を考える上で、人間の「こころ」の働きを理解していく重要性が認識されている。本講義では、臨床心理学的知見に基づき、これらの現代社会における困難の在り方を理解し、それらに向けた対処法・解決法を考えていく。特に、大学生活における心理的課題や、自己と他者との相互作用における「こころ」の働き、人間関係の形成等に注目して講義を行う。</p>	
教養科目群 文化・芸術・歴史	心の科学	<p>大学で初めて授業として受けるであろう「心理学」の入門のための講義である。「心理学」に関して、しばしば間違った先入観を持っている学生が多いので、「心理学」の科学性の理解を目指した授業を行う。そのためには、心理学のさまざまな領域があること、心理学および領域ごとに独自の科学的な研究方法があることへの理解が不可欠である。そこで、「知覚心理学」「認知心理学」「発達心理学」「社会心理学」「計量心理学」を代表とした科学的な手法で行われている心理学の各領域の基本的な事項を、それが得られた研究手法を含め、幅広く紹介する。</p>	
教養科目群 文化・芸術・歴史	ことばの科学	<p>ことばの仕組みについての理論的研究、行動研究、脳・神経科学的研究について学ぶ。普段使用している「ことば」には、気がついていない側面が数多くあることを知り、自然科学の枠組みでとらえて探求する方法論を理解する。ことばを科学的に分析する能力を習得し、事象への認知科学的・神経科学的なアプローチの仕方を身につける。言語の獲得と使用の根幹をなす理論とその生物学的な基盤について、自ら問題を立てて考察する力を養う。</p> <p>オムニバス方式(全15回)                      (48 小川定義／3回)言語の違いと共通点                      (211 橋本龍一郎／2回)言語科学と脳科学                      (213 原田なをみ／3回)文の構造と意味                      (215 藤川直也／2回)ことばの意味、コミュニケーションの仕組み                      (216 保前文高／3回)援護獲得と脳科学                      (55 本間猛／2回)ことばの音の仕組み</p>	オムニバス方式
教養科目群 生命・人間・健康	生命を支える化学物質	<p>私たちの体の中では、生命を保つためにいろいろな活動（反応）が営まれている。本講義では、私たちのからだを構成している生体高分子（蛋白質、核酸など）について、その分子構造の観点から、機能発現のメカニズムを概説する。特にこれらの生体高分子が担っている様々な生命現象の中でも、生命の設計図が読み取られ、機能を担う蛋白質が設計図に従って合成される仕組み、さらにその設計図が正確にコピーされ、維持される仕組みや、細胞内での信号伝達の仕組みを紹介する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群 生命・人間・健康	現代社会・化学の役割	生命科学は物理・化学の視点から多くの研究が行われ発展し、今日では私たちの日常生活に最も密接に関連する科学の一つとなっている。本講義では遺伝情報メカニズムを支える分子とその機能について、「現代生命科学における化学の役割」という視点から議論する。地球上の生物が共通に持つこの遺伝情報メカニズムを化学の観点から学び、生命と非生命の境界や、地球上の生物とは異なる生命の可能性について議論を行う。また、現代の科学技術を代表する研究領域の一つである構造生物化学とその応用について、いくつかトピックを概説する。	
教養科目群 生命・人間・健康	細胞の世界	(英文) This course will provide students with concepts and definitions in cell biology to help understand how cells are organized, with emphasis on intracellular trafficking and signaling mechanism. (和訳) この授業では、個々の細胞がどのように構成され、細胞間で協調しているか学ぶ。あわせて細胞内輸送について学ぶ。 オムニバス方式 (全15回) (289 高鳥直士/8回) 細胞内の代謝, 細胞骨格 他 (385 武尾里美/7回) 細胞間シグナル伝達, 細胞内輸送 他	オムニバス方式
教養科目群 生命・人間・健康	ゲノム科学	本講義は、理系・文系を問わず高等学校で生物が未履修の学生も対象とするため、ゲノム科学の基礎的な知識から最新の研究成果まで幅広く概説する。地球上の生物はDNAの塩基配列にゲノム情報を貯え子孫に伝えており、ゲノム情報は生命活動の設計図として利用されている。本講義では、ゲノムについての基礎的知識および解析手法、さらにゲノムと社会生活とのかかわりについて解説し、近年急速に進行しているゲノム解析の意義を理解することを目的とする。 オムニバス方式 (全15回) (126 田村浩一郎/7回) ゲノム・DNAとは、DNA・遺伝子・染色体の構造、細胞分裂、突然変異 他 (288 坂井貴臣/8回) ゲノム情報の医療への応用、遺伝暗号解読、遺伝子発現調節 他	オムニバス方式
教養科目群 生命・人間・健康	神経生物学	脳・神経系のつくりと働きについて、広く動物界全体の中でヒトを位置づけながら生理学的、情報科学的観点から概説する。あらゆる動物は体内外の環境からの様々な情報を刺激として受容し、それに対して適確に反応する。また動物はよりよく生きるために様々な刺激を経験として記憶し、学習をする。この講義では、動物にとって必須の生命活動である刺激反応性と記憶・学習の基本的なメカニズムを理解するために、脳・神経系に関する基礎的知識を得た上で、様々な動物の研究から得られて来た神経生物学の知見を学ぶ。	
教養科目群 生命・人間・健康	人間生物学	Better health is central to human happiness and well-being. This course will provide students a foundation to understand human biology in health and disease to help them to make informed health decisions and develop critical thinking. Course format: combination of didactic lecture and student presentation  健康は幸せな生活を送るために不可欠である。この科目では、どのように私たちの体が健康に維持され、またなぜ病気になるのかについて理解するため、生物学的な基礎を学ぶ。健康に関連する情報を正確に理解・判断し、健康に関するよりよい決断ができるようになることを目的とする。形式は授業と学生による発表。	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 科目群	生命・ 人間・ 健康	先端生命化学入門	進化する生命化学や21世紀の先進医療について講義する。生命化学や先進医療を支える材料化学、生物化学、バイオテクノロジー、ナノテクノロジーについて系統的に学び、これら技術が遺伝子工学や細胞工学等で果たす役割について学ぶ。さらに、これら技術を基盤としたガン治療、遺伝子治療、人工臓器、再生医療等の先進医療を学び、これを実現する上での技術の重要性を理解する。また、先進医療で問題となる社会的倫理面についても議論する。
教養 科目群	生命・ 人間・ 健康	先端生命化学入門	進化する生命化学や21世紀の先進医療について講義する。生命化学や先進医療を支える材料化学、生物化学、バイオテクノロジー、ナノテクノロジーについて系統的に学び、これら技術が遺伝子工学や細胞工学等で果たす役割について学ぶ。さらに、これら技術を基盤としたガン治療、遺伝子治療、人工臓器、再生医療等の先進医療を学び、これを実現する上での技術の重要性を理解する。また、先進医療で問題となる社会的倫理面についても議論する。
教養 科目群	生命・ 人間・ 健康	スポーツ・健康と脳科学	生涯を通じて健康であるために、運動・スポーツの実践が有効であることは疑う余地がない。本講義では、運動・スポーツを習慣化するための基礎的素養の育成を目指し、身体のしくみや運動による健康増進効果などについて、生理学・神経科学・スポーツ科学など幅広い視点から講義し、以下の知識・能力の習得を目指す。 ①運動を行う身体のしくみや、身体の適応に関する基礎的知識を身につける。②身体活動、運動、スポーツの違いについて、述べる事ができる。③運動・スポーツを習慣化するために、主体的に考え、実践することができる。
教養 科目群	生命・ 人間・ 健康	エクササイズ科学	エクササイズ/フィットネス科学、そして健康のことについて興味を持ち、生体機能適応と神経-筋生理学を軸に学び、効率的に身体機能を向上させるための知識を得ることを目的とする。また、それらの知識や情報を用いてアスリートや各個人に適したエクササイズ・トレーニング方法を指導できる能力と初歩的な科学研究を計画・実施し、結果をまとめて発表できる能力を得られる。
教養 科目群	生命・ 人間・ 健康	健康スポーツ科学	スポーツや身体運動がもたらす健康の恩恵効果、つまり健康を維持・増進し病気を改善する効果が、どのような仕組みで生じるかを、医学・分子生物学・細胞遺伝学の視点から学ぶ。「運動は健康によい」という自身の経験と、これまで学んできた科学（数学、物理学、化学、生物学など）の知識が邂逅する知的興奮を楽しみながら、健康の維持・増進および生活習慣病の克服にスポーツや運動がいかに重要な役割を果たすかを学習できる。
教養 科目群	生命・ 人間・ 健康	健康の栄養学	多様化する生活環境の中で、個人が健康を維持するための適切な栄養素摂取について、栄養素の働きと欠乏や過剰が引き起こす問題を中心に講義する。また、集団としての栄養問題や遺伝的素因と栄養、栄養素供給の問題など、栄養をめぐる広範な問題を幅広い視野から考察するための基礎知識を身につける。
教養 科目群	生命・ 人間・ 健康	行動生理学	生体のホメオスタシス（恒常性）のしくみについて、自律神経系、内分泌系、免疫系の観点から学習し、それらの相互作用及び脳神経系との関連を理解する。また、さまざまな環境要因や刺激による行動変化、生理的・心理的変化、生体適応を制御する脳神経メカニズムについて学習するとともに、脳の可塑性、認知機能、精神疾患などに影響を与える要因として、身体的刺激（運動、生活習慣など）のみならず心理的・社会的刺激の作用についても理解する。これらの学習を通して、「バランスのとれたところとからだの健康」を育む能力を養う。
教養 科目群	生命・ 人間・ 健康	生活習慣と栄養	健康と生活・食生活との関係について基本的な考え方を解説する。また、日々の食事をどのようにとったらよいか、具体的・実践的な食事学について講義する。さらに、健康と社会との関わりについて理解することで、健康的な生活習慣をベースにした生涯にわたる健康づくりについて、理論と実践とを結びつけて考える力を養うことをねらう。

授 業 科 目 の 概 要				
(法学部 法学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養 科目群	生命・ 人間・ 健康	認知と行動	私達は外界環境を知覚・認知し、その情報をもとに行動する。運動や行動はそれらの情報処理過程を背景に営まれている。本講義では、知覚・認知情報処理の一般的特性、運動や行動との関連性について講義する。特に講義では、スポーツ熟練者やプロのエンターテイナーの認知行動的な卓越性の理解や、こころの発達や犯罪、ヒューマンエラーなど、社会の実際的な問題との関連性について解説する。	
教養 科目群	生命・ 人間・ 健康	生体機能調節学	生体は複雑な調節機構を有している。その調節機構に関して、生体における恒常性(ホメオスタシス)の維持機構を学ぶ。特に、我々の生命維持に必須であるエネルギーの摂取からエネルギー消費に至る過程について、細胞内で起きているミクロな視点から、生体調節へのマクロな視点まで統合的に学び、その理解を深める。さらに、その調節機構が破綻したときに生じる様々な疾病との関連についても学び、我々の生体の複雑さについて、「細胞レベルの反応」と「生体レベルの反応」を統合的に理解できるようになる。	
教養 科目群	科学・ 技術・ 産業	科学哲学	現代の自然科学の諸理論は、典型的には、数学の言語を用いて厳密に展開され、また精確な実験・測定の手続きによって客観的な確証を得るといふ、大変強固と言ふべき方法論的基盤を備えている。しかし同時に、帰納法ひとつを取っても、その認識論的正当化には多くの未解決の問題が残されており、更に、それぞれの理論の基底に据えられる概念(物理学で言えば「時空」「物質」「力」、生物学で言えば「生命」「進化」など)は、改めて検討するときさまさまの不明瞭さや謎を孕んでいることが判明する。こうした諸問題の検討を通じて、科学が真に明らかにしていると言つてよい事柄は何であるのかを考察する。	
教養 科目群	科学・ 技術・ 産業	地球環境と人類の歴史	地理学と考古学の教員による講義形式の授業である。地球環境の変遷は人類社会の発展は、互いに大きな影響を与えて来た。過去数百万年間にわたる人類の進化と地球環境の変化の関係を理解するため、人類活動が引き起こした環境変化、環境変化と文明の興亡、自然環境と人類社会の調和などについて解説する。 オムニバス方式(全15回) (133 渡邊眞紀子/7回) 担当範囲 地理学から見た環境変化と人類 (221 出穂雅実/8回) 担当範囲 考古学から見た環境変化と人類	オムニバス方式
教養 科目群	科学・ 技術・ 産業	日本の産業と企業	「首都大学東京同窓会」の協力により、産業界で活躍している卒業生を、毎回ゲストスピーカーとして招いて社会で培ってきた知識、経験、理念を在學生に伝える授業である。現代の日本社会を支える主要産業の歴史、現状、課題を解説し、また現代日本を象徴する重要プロジェクトを紹介することを通じ、現代社会の諸課題とその解決に向けた取組を理解することを目標とする。産業別講義とプロジェクトに関する講義を行う。	
教養 科目群	科学・ 技術・ 産業	現代物理学の考え方	宇宙の構造と進化、それらを明らかにする観測手段を知ることから物理世界の理解の基礎を与え、同時に携帯電話やパソコンなどのあらゆる最新の電子機器を生み出した現代物理学の考え方を学ぶ。全15回のオムニバス方式で行う。 オムニバス方式(全15回) (263 石崎欣尚/7回) 宇宙物理学の考え方、星の進化と超新星、高密度星とブラックホール 他 (110 青木勇二/8回) 電子の粒子性と波動性、波としての電子と半導体、超伝導・超流動 他	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 科目 目群	科学・ 技術・ 産業  素粒子から宇宙	我々の身の回りの自然には様々な疑問が一杯ある。人類はギリシャ時代からこのような身の回りの不思議に挑戦してきた。素粒子から宇宙に至る自然の階層性を理解し、それぞれの階層でどのような物理法則が重要な役割を果たしているのかを学ぶ。20世紀初期に発見された量子力学と相対性理論は我々の自然観に大きな変革をもたらした。この2つについての基本的な考え方を学ぶ。授業では、自然界の成り立ちを理解するために素粒子から宇宙を俯瞰的に眺め、現代の自然観を一緒に探っていく。	
教養 科目 目群	科学・ 技術・ 産業  科学史A	16世紀後半以降の自然科学が社会の中でどのように誕生し、発展してきたのかを物理学を事例にしてわかりやすく解説する。この講義ではルネサンス期以降の科学（物理学）を扱うが、その前提となる古代・中世における研究の成果はそれぞれ関連する箇所において簡潔、平易に解説する。また、自然科学の用語のほか自然科学史などで使用する独特の用語を用いる場合もあるが、そのさいにもなるべく易しい言葉で解説を加える予定である。	
教養 科目 目群	科学・ 技術・ 産業  宇宙地球物質の化学	太陽系はいつ誕生し、どのような過程をへて、現在の姿になったのか。望遠鏡や人工衛星による天体観測・惑星探査による知識は、これを解く重要な鍵の一つであるが、太陽系を構成する物質の化学的手法による物質科学的研究から得られる元素の組成や同位体の組成もまた重要な鍵を握っている。本講義では、隕石を化学の目を通して見たことからわかる太陽系について講義する。また、宇宙や星の進化を学ぶために必須な原子核の基礎知識、実験手法なども講義する。	
教養 科目 目群	科学・ 技術・ 産業  現代分子科学	分子科学における対称性の問題について講義する。まず分子の形を対称性によって点群に分類し、化学に関する基礎知識を習得するとともに、物の形とその性質について一般的な理解を深める。また対称要素により正多面体を分類し、サッカーボール型分子C60など、高い対称性を持つ分子について学習する。分子の色や光吸収、キラリティーについて対称性の観点から整理するとともに、最近の研究を紹介する。後半には、今日大きな問題となっているニセ科学について討論を行う。	
教養 科目 目群	科学・ 技術・ 産業  バイオテクノロジー	現代社会において多大な貢献をなしているバイオテクノロジーについて、その基礎と最先端について解説する。ヒトを含めた動物の発生と遺伝子について概観し、その知識に基づいて発生医療、再生医療における最新のバイオテクノロジーを解説する。農業、食品そして環境分野で幅広く利用される微生物、植物のバイオテクノロジーを解説する。動物、植物および微生物それぞれの立場から解説し、将来の人間社会においていっそう重要性が増すと考えられるバイオテクノロジーの理解を促す。 オムニバス方式（全15回） （125 川原裕之／8回） 個体の発生過程と細胞の分化（I, II）、細胞分化と遺伝子発現（I, II）、クローン動物、ES細胞とノックアウトマウス、iPS細胞とその応用、バイオテクノロジーと生命倫理 他 （284 得平茂樹／7回） 醗酵、酵素、DNA、遺伝子、遺伝子工学技術、微生物バイオテクノロジー、植物バイオテクノロジー、バイオエネルギー 他	オムニバス方式
教養 科目 目群	科学・ 技術・ 産業  人工物のテクノロジー	工学技術の成果である人工物は、豊かで利便性の高い社会を実現し、社会や生活に不可欠なものとなっている。本講義ではそのような人工物を対象とする工学分野を学修することによって、人工物のテクノロジーのあり方について考察する。 オムニバス方式（全15回） （164 下村 芳樹／8回） サービス工学と人工物のテクノロジー 他 （167 増田 士朗／7回） サイバネティクスと人工物のテクノロジー 他	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 科目群	科学・ 技術・ 産業 大気と水の循環を学ぶ	地球規模での大気と水の循環を理解し、日本の気候の特徴をグローバルな視点から確認すること、人間活動と気候変化との関係を理解し、自然環境と人間に関する地理学的な見方を身につけることが目標である。まず太陽系の中での地球大気の特徴を概観し、次いで身近な雲や風から出発して、地球全体の大気と水の循環に至り、その中での日本の気候や世界のモンスーン気候の特徴、人間活動の気候変化への影響について述べる。	
教養 科目群	科学・ 技術・ 産業 大地の成り立ちを探る	大地を構成する重要な要素である地形・地質について、どのような自然現象と人間活動が関わってきたか、またその将来がどうなるかについて解説する。このため、地球上で繰り返られる地学現象の概要を解説するが、とくに日本列島を題材に、地震・火山活動・気候変化と平野の地形形成過程に焦点をあてる。また、自然現象が時として人間社会に対し自然災害というかたちで影響を与える点についても触れる。	
教養 科目群	科学・ 技術・ 産業 自然災害と社会	地理学の研究成果に基づいて、さまざまな自然災害とそれに対する社会の対応、対策を概説する。自然災害の実態や発生メカニズム、人類社会との関わりを理解し、それにより防災意識を高めるとともに、人間活動が自然環境に大きな影響を与えていることを認識することが目標である。  オムニバス方式（全15回） （129 鈴木毅彦／4回） 担当範囲 地震と火山噴火がもたらす自然災害 （293 白井正明／4回） 担当範囲 固体地球表層（地面や海底）で発生する自然災害 （130 高橋日出男／4回） 担当範囲 気象災害の種類・性質と大気現象 （292 川東正幸／3回） 担当範囲 自然災害に対する社会の対応、世界的に深刻な森林火災	オムニバス方式
教養 科目群	科学・ 技術・ 産業 ツーリズム産業論	観光関連産業（旅行業、宿泊業、運輸業、出版・情報産業等）や観光関連行政の一線で活躍する人々をゲストにむかえ（各回一人、計十人程度）、ゲストの講演や教員・受講生との対談、教員によるフォローアップ講義を通じて、観光関連各産業の概要や今日的な話題について講義を行う。これにより、少子高齢化社会において観光が果たす社会的・経済的役割や、我が国の抱えるサービス産業の高度化・国際化という課題について、受講者の理解を深めさせる。  オムニバス方式（全15回） （312 倉田陽平／4回）担当範囲：第1回、第7回、第14回、第15回 （313 直井岳人／11回）担当範囲：第2回～第6回、第8回～第13回 第1回ガイダンス 第2～4回：旅行業の現場 第5～6回：宿泊業の現場 第7回：中間まとめ 第8～9回：運用業の現場 第10～11回：観光施設業の現場 第12～13回：行政の現場 第14回：まとめ 第15回：試験と解説	オムニバス方式
教養 科目群	科学・ 技術・ 産業 生体と機械	人や生物は、その生命を維持して活動するために機械的な仕組みを多く利用している。本講義では、生体の機械システムとしてののらえ方を理解するため、生体の組織や機能の機械的な側面とその医療・スポーツへの適用、および人の生活動作の機械的な側面とその福祉工学などへの適用について学修する。  オムニバス方式（全15回） （166 藤江 裕道／8回） 生体材料と機械、医用工学、スポーツと機械 他 （165 瀬尾 明彦／7回） 人の動作と機械、生活環境と機械、福祉工学 他	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 科目群	科学・ 技術・ 産業	デザインと生活 私たちの身のまわりにあるものは、デザインされたもので構成され、そのおかげで便利で豊かな生活を送ることができている。本講では、人々の生活をより豊かにデザインするために必要な要素について、人とモノ、空間、システムとの関係について演習を交えて講述する。 オムニバス方式（全15回） （169 笠松慶子/5回） 人間の生活と道具の関わり、製品づくりのプロセスなど （408 茂木龍太/5回） CGの活用、3Dプリンタの活用、プロトタイプングデザインなど （406 土屋真/5回） モダニズム・ポストモダニズム、イノベーションなど	オムニバス方式
教養 科目群	総合ゼミ ナール	総合ゼミナール 学部3・4年次の学生を対象とし、現代社会における様々な問題・課題について、異分野の学生とのディスカッション等を通じ、自らの専門を基盤としながら他者の視点から考えを深め、総合的な問題思考力、倫理観、社会的責任を涵養する。また、自身の専門分野の立場から、専門外の人にも分かり易く考えを説明できるよう、コミュニケーション能力や表現力の向上を図る。テーマに関する課題設定、調査、発表、討論、報告書の作成等を通じ、学生に生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を修得する。	
基盤 科目群	人文科学 領域	社会学A 現代社会の諸問題をとりあげながら、それを通して社会学における基礎的な概念を理解し、社会学的な考え方や分析の仕方の基礎を習得する。さらに社会学的な知識や発想を理解することで、経済学や法学とは異なる人間や社会にたいする見方を自らのものとすることを目指す。ここでは特に社会学を初めて学ぶ者を対象にして、現在の具体的な社会現象を考察の事例としながら、社会学の基礎的な方法、概念、理論へと親しんでいくことを目標とする。	
基盤 科目群	人文科学 領域	社会学B 現代社会の社会構造とそこで様々な社会的行為を行う人間が、どのように絡み合いながら社会現象や社会問題を生み出していくのかを把握し、考察する。ここでは社会学の基礎的な理論と方法がある程度理解していることを前提として、その方法を、たとえばジェンダー、社会階層、若者文化、メディア論、産業・労働、エスニシティ、都市・地域、コミュニティ、医療などの具体的な問題や学説史上の課題に対応させて学んでいくことを目標とする。	
基盤 科目群	人文科学 領域	文化人類学A 文化・社会人類学は文化相対主義の立場を掲げ、現地・現場でのフィールドワークと民族誌の記述を通じて私たちの「常識」を疑い、世界の見方やものの考え方を刷新させてきた。本授業では、文化人類学の研究動向をふまえ、文化・社会人類学に関する基本的な文献を紹介し、文化・社会人類学に特有の研究視点、理論的枠組み、フィールドワークの方法論について理解することを目的とする。とくに、主要な文化人類学者と民族誌の紹介を通じて、民族誌的記述の有効性に対する理解を深める。	
基盤 科目群	人文科学 領域	文化人類学B 文化・社会人類学は、「生活すること」を基盤とするローカルな現場でのフィールドワークの実践を通じて、独自の世界の見方やものの考え方を構築してきた。本授業では、これまでの研究成果をふまえ、文化・社会人類学に特有のフィールドワークの方法と研究視点について理解するとともに、その視点から現代社会に対してどのような問題を提示してきたかを理解することを目的とする。とくに、現代社会の諸問題に対する文化・社会人類学的な視点の有効性に対する理解を深める。	
基盤 科目群	人文科学 領域	社会福祉学 社会福祉学の入門として、社会福祉や社会保障に関する関心を高めることを目的とする。社会福祉が扱うさまざまな問題（貧困や格差、少子高齢化、高齢者介護、保育・育児支援、社会的孤立、障害者支援など）について学び、それらに対して政策がどのように対処してきたか、また、今後対処していくべきかを考える。	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤 科目群	人文 科学 領域	心理学の基礎 本講義はオムニバス形式で様々な心理学の基礎を学ぶものである。心理学が扱う領域のうち、知覚・認知、社会、発達・臨床といった分野における基礎的な内容を解説する。心理学の視点から、人間の知覚・認知、発達、社会行動のもつ意味を分析的、統合的に考えられるようになることを本講義のねらいとする。 オムニバス方式（全15回） （202 石原正規・53 沼崎誠／1回）イントロダクション、授業方針の説明 （202 石原正規／3回）知覚心理学を中心とした内容を担当する。 （53 沼崎誠／3回）社会心理学を中心とした内容を担当する。 （202 石原正規・53 沼崎誠／1回）前半部分の試験と解説 （207 酒井厚／6回）発達・臨床心理学を中心とした内容を担当する。 （207 酒井厚／1回）後半部分の試験と解説	オムニバス方式、一部共同
基盤 科目群	人文 科学 領域	心理学方法論 人の「こころ」を科学的に研究する為には、客観的・実証的に事物をながめ、論理的に思考していくことが重要である。心理学は、人の行動や反応についての一般的な法則性を導き、また個人の特徴を説明しようとする学問である。そのためには、実際に調査や観察などを行ってデータを収集し、ある理論的仮説が支持されるかどうかを検証するというアプローチをとる。本講義では、こうした「こころ」に対する科学的なアプローチ法について、心理学の歴史と心理学の諸領域における代表的な研究方法を中心に解説する。	
基盤 科目群	人文 科学 領域	教育学 教育について、現代社会において多くの人が最も自覚できる場は学校であろう。それゆえ、学校にかかわる問題は主観的に語られがちだが、学術的に学校について論じるには客観的なデータに基づくことが求められる。そこで、学校について論じるのにふさわしい客観的なデータについて、学校の特定の場面等をテーマに取り上げて、そのテーマに関するデータを紹介していきながら説明する。その過程を通して、データから学校を想像したり、学校についてデータを使いながら考えたりするための基礎的な知識・技法を修得することを目的とする。	
基盤 科目群	人文 科学 領域	哲学A 哲学とは、どこかに存在する絶対的真理へと我々を導くものでもなければ、また、答えの出ない問いを延々と問い続けるものでもない。何が絶対的真理なのかを問題にするのではなく、どうして人は絶対的真理を求めるとか問うもの、それが哲学である。あるいは、どうして哲学は論理的難問を次々と作り出す空虚な言語ゲームに墮してしまうのかと問うもの、それが哲学である。要するに、哲学とは、真理の場所、普遍性の場所、正しさの場所を開示するものなのであるが、このことを、古代から現代までの主要な哲学者の思索に触れつつ明らかにする。	
基盤 科目群	人文 科学 領域	哲学B 卵子凍結、出生前診断、iPS細胞、動物の福祉等、科学の発展や文化の衝突等の要因により、伝統的倫理学が想定していなかった事態が生じている。本講義ではおもに生命倫理に焦点をあて、現状を理解し、問題点を把握し、あわよくばその解決の道筋を検討する。たんに対立する見解に賛成・反対する立場を強化するのではなく、対立する諸価値に正当に投錨する姿勢と、逆に、諸価値を批判的に掣肘する姿勢とを身につけることを目標とする。	
基盤 科目群	人文 科学 領域	倫理学A 昨今、自尊心（セルフ・エスティーム）の重要性が指摘されているが、他方で当然利己心は否定的な評価にとどまっている。すると、自愛感情のうちにも、肯定されるべきものと否定されるべきものがあるということになるが、とりわけ肯定されるべき自愛心は西洋倫理学史上、どのような扱いを受けてきたのであろうか。本講義では、「肯定される自己愛」をめぐる、プラトン、アリストテレス、イエス、アウグスティヌス、トマス・アクィナス、スピノザなど、古代から近代にかけての西洋哲学者の倫理想を概観する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（法学部 法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤 科目群	人文 科学 領域	倫理学B	人類史上、倫理が問題とされなかった時代は一度もなかったが、倫理について一致した見解が共有されたことも一度もなかったと言ってよい。常なる対立にある倫理学に、正当な根拠は存在するのであろうか。本講義では、西洋倫理学の歴史を追うことをつうじて、道徳や善悪の観念の由来・根拠を考察し、学としての倫理学の正当性を確認する。
基盤 科目群	人文 科学 領域	論理学A	論理学への入門として、命題論理の基礎を紹介する。このコースでの学習内容には、次のようなものが含まれる。(1) 命題論理の形式言語の構文規則。(2) 日本語の文を命題論理の形式言語に翻訳（記号化）するためのテクニック。(3) 命題論理の演繹体系、特に自然演繹体系の規則とテクニック。(4) 議論の妥当性を評価する手段として、真理表や意味論的タブローの手法。入門コースとしての性格上、基礎的概念の習得が主な目的となるものの、折に触れて命題論理の歴史も簡単に紹介する。また、論理学が現代の哲学、言語学、コンピューター科学等に与えている影響についても言及する。
基盤 科目群	人文 科学 領域	論理学B	論理学Aに続くコースとして、述語論理の基礎を紹介する。このコースでの学習内容には、次のようなものが含まれる。(1) 述語論理の形式言語の構文規則。(2) 日本語の文を述語論理の形式言語に翻訳（記号化）するためのテクニック。(3) 述語論理の演繹体系、特に自然演繹体系の規則とテクニック。(4) 議論の妥当性を評価する手段として、モデルや意味論的タブローの手法。論理学Aと同様にこのコースでも、基礎的概念とさまざまなテクニックの習得が主な目的となるものの、折に触れて現代的な述語論理の歴史も簡単に紹介する。また、論理学が現代の哲学、言語学、コンピューター科学等に与えている影響についても言及する。
基盤 科目群	人文 科学 領域	言語・思考・行為	<p>私たちが日常的に出会う様々の問題状況において、できる限り合理的な解決策を見つけ出そうとする場合、私たちが安心して採用することのできる一般的な思考規則・推論原理といったものとして、一体何があるのか。こうした問題を扱う分野はふつう「クリティカル・シンキング」と呼ばれ、本科目もその一例であるが、ただし、特に、(1) 言語の解釈や用法に関わる諸問題を重視する、(2) 論理学・認知科学から統計・確率論などにわたる多様な批判的思考の原理をカバーする、(3) 行為の諸理論（意思決定論、ゲーム理論など）との関連を重視する、という点に、本科目の特色がある。</p> <p>オムニバス方式（全15回）                      (65 岡本賢吾／3回) クリティカル・シンキング                      (62 大島資生／4回) 言語の論理                      (215 藤川直也／4回) 論証の構造                      (79 松阪陽一／4回) 合理的な思考</p>

オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（法学部 法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤 科目群	人文 科学 領域	<p>本講義は人文社会系の教室が提供するオムニバス形式の講義である。ひとつの総合テーマについて、コーディネーター役教員の司会にそって、各学問分野の教員が各1回を担当する。「オムニバス（omnibus）」とは元来、「たくさんの人間が乗った乗合馬車」の意味だが、本講義では、ひとつの目的地（テーマ）を目指す複数の講師から多面的なものの見方を学び、人文社会系の知識を全方位的に開くことができる。もちろん、他学系の学生が受講しても有益な内容である。</p> <p>オムニバス方式（全15回）            (230 西山雄二／15回) オムニバスの視点            (42 宮台真司／1回) 社会学の視点            (33 綾部真雄／1回) 文化人類学の視点            (37 杉野昭博／1回) 社会福祉学の視点            (207 酒井 厚／1回) 心理学の視点            (208 杉田真衣／1回) 教育学の視点            (48 小川定義／1回) 言語科学の視点            (212 長谷川守寿／1回) 日本語教育学の視点            (79 松坂陽一／1回) 哲学の視点            (66 鎌倉佐保／1回) 歴史学の視点            (229 中嶋 泉／1回) 表彰文化論の視点            (62 大島資生／1回) 日本文化論の視点            (60 大久保明男／1回) 中国文化論の視点            (234 安井マイケル／1回) 英語圏文化論の視点            (235 山本 潤／1回) ドイツ語圏文化論の視点</p>	オムニバス方式、 共同
基盤 科目群	社会 科学 領域	<p>判例・論文等を素材として、民法法の、さらには法律学の入門的講義を行う。民法法（を含めた、実定法）の学部専門科目を受講することにも耐えうる基礎学力を養成することを目標とする。条文や判例、論文等、法律学を学習する際の最も基本的な素材に実際に触れながら、その扱い方を学ばせる。民法法に関しては、本来学部1年生の間に学習しておくことが望ましいにもかかわらず、時間の都合等から学部専門科目の授業では充分に取り扱うことのできない事柄もあるため、これらについて十分な理解を促すことも本科目の目的・目標である。</p>	
基盤 科目群	社会 科学 領域	<p>刑法・刑事訴訟法をはじめとする刑法の基本思想、犯罪論の基礎、刑事手続の概要を踏まえつつ、近時の犯罪情勢や各種犯罪への対応、刑事手続の概要などについて講義をする。犯罪の実態や、それに対する刑事法的対応について、基本的な理解を得ることを目的とする。併せて、刑法と刑事訴訟法を題材に、法的な思考力を身に付けることも目的とする。刑法分野の法学系専門科目への導入講義として位置づけられるものであり、法学系推奨科目として、法学系学生は1年次に履修することが強く期待される。</p>	
基盤 科目群	社会 科学 領域	<p>本講義は、法律学の基礎的な概念や知識を習得するとともに、特に、法解釈とは何か、裁判とはどのようなものかなどのテーマを中心に学ぶ。なお、本科目は法学系の専門科目への導入科目としての性格も有するので、法学系学生の受講を推奨するが、法学系以外の学生もこれらの知識などを習得することで、今後の社会生活に役立つ内容とする。法とは何か、法的な思考とはどのようなものか、法律の解釈とは何か、裁判制度はどのような役割を果たすかなど、法律学の基本的知識の習得を目標とする。</p>	
基盤 科目群	社会 科学 領域	<p>政治の歴史や概念、思想の基礎的事項について概説する。本講義は、政治学コースの専門教育科目を学ぶための導入科目であると同時に、政治学を専攻しない学生が政治理論に関する基礎的な知識を習得し、各自の専攻分野の学修における視野を広げることを目的とした入門科目である。権力や正統性、紛争、利益、イデオロギー等の政治学の基礎概念を解説するとともに、ジェンダーやエスニシティ等、現代の政治理論に関わるトピックをとりあげ、歴史と思想の視点を踏まえて政治の理論・概念を明らかにする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤 科目群	社会科学 領域	現代政治入門	
基盤 科目群	社会科学 領域	入門マクロ経済学	
基盤 科目群	社会科学 領域	入門ミクロ経済学	
基盤 科目群	社会科学 領域	経済史・思想入門	オムニバス方式
基盤 科目群	社会科学 領域	経営学入門	
基盤 科目群	社会科学 領域	会計学入門	

授 業 科 目 の 概 要				
(法学部 法学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤 科目群	社会科学 領域	統計学Ⅰ	本講義では、前半でデータのまとめ方・特性値（記述統計）について、後半で「統計学Ⅱ」の準備としての確率論について講義する。データをまとめること、確率論の初歩を理解すること、代表的な確率分布の性質を理解することを目標とする。内容は、記述統計（平均・分散等）・物価指数・ローレンツ曲線・多変数データ・確率・確率変数である。授業中には可能な限り練習問題を解く時間を設ける。	
基盤 科目群	社会科学 領域	統計学Ⅱ	本講義では、得られたデータを用いて母集団のパラメータを推定したり、仮説を検定したりする方法を学ぶ。さまざまなパラメータの統計的推測・仮説検定について理解することが目標である。内容は、確率変数・標本分布・推定（母平均・母分散の点推定・区間推定）・検定（平均・分散の検定・適合度検定・独立性の検定）である。授業中には可能な限り練習問題を解く時間を設ける。	
基盤 科目群	社会科学 領域	デザインマネジメント概論	社会に生きる一生活者の視点から、創造力、クリエイティビティを切り口として、商品としてのコンテンツ流通、コミュニケーションツールとしての製品の現状を概観し、それを取り巻く制度、業界構造、産業構造、市場規模等について考察を深め、今日のインダストリアルデザイン・マネジメントについての基本素養を身につける。 また、非デザイン専攻者において常識的に知っておくべきデザイン戦略を学ぶと共に実際のプロダクトデザイン開発プロセスなどを分かりやすい事例など通じて直・間接的に体験できることを目指す。	
基盤 科目群	自然科学 領域	数学の歴史	数学的な知識・技術の歴史は、パピルス文書や楔形文字による粘土板文書等によってほぼ3,500年を遡ることができる。しかし、学問・科学としての数学(Mathematics = 4学科:算術、幾何、天文、音楽)は約2,500年前のピュタゴラスに遡る。彼とその学派は人間の理性・知性の開発を目的とした「知育」を興し、そのための4学科を整えた。特に、非直感的な「証明」による論証を数学の方法として採用し、以来、数学は長い歴史をはぐくんできた。人類の文明史の根底に流れる人間精神の営みとしての数学を紹介する。	
基盤 科目群	自然科学 領域	計算の理論	主に数理科学科以外の学生を対象として、計算とは何かと言う問題から出発して、コンピュータで計算するとは何か、計算とはどんな基本構成要素からなるのか、計算の実行には基本要素を正しく構成する必要がある事を解説する。その具体例として簡単なプログラミングの読み方を学び、その構造を解析することにより、アルゴリズムとデータ構造の数学的なしくみを体験してほしい。具体的には、計算するとは何か、計算の手間と正しさ、標準データ型、構造データ型などを説明する。	
基盤 科目群	自然科学 領域	現代的教養のための確率統計	偶然に支配される事象でも繰り返起こると、何らかの法則性を持つ事が多い。確率統計は、頻繁に繰り返されると現れる「偶然の中の法則性」を扱う数学で、物理学、生物学、気象学などの自然科学以外にも、生命/損害保険や金融などの経済学や、カジノなどの実社会にも広く応用されている。この科目では確率統計の基礎を説明し、その応用として、オプションの価格付けなど、近年著しい発達を遂げている「数理ファイナンス」の幾つかのトピックをわかりやすく紹介する。	
基盤 科目群	自然科学 領域	建築文化論	首都大学東京の学生が持つべき一般的教養として、また、建築を志す学生が持つべき基礎的知識として、建築と文化との関わりについて講述する。 オムニバス方式(全15回) (305 鳥海基樹/6回)都市と形態他 (142 吉川徹/3回)都市と尺度他 (139 竹宮健司/3回)建築と尺度他 (138 小泉雅生/3回)環境と建築他	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（法学部 法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤 科目群	自然科学 領域	環境と建築  首都大学東京の学生が持つべき一般的教養として、また、建築を志す学生が持つべき基礎的知識として、地球スケールでの持続可能性問題と建築・都市、また、そこに住む人との関わりについて講述する。  オムニバス方式（全15回） （141 永田明寛+303 一ノ瀬雅之/1回）環境と建築 （141 永田明寛/7回）気候と風土、空気室と必要換気量、機械換気と自然換気 他 （303 一ノ瀬雅之/7回）都市のエネルギー、水環境・給排水設備の基礎 他	オムニバス方式、 一部共同
基盤 科目群	自然科学 領域	情報科学入門  コンピュータやインターネット，データベース，人工知能などといった様々な情報技術が我々の日常生活を支えている．本講義では，身近な情報技術や最先端の情報技術・システムに関する話題を題材としながら，情報科学の基本概念や基礎知識について学ぶ． オムニバス方式（全15回） （159 高間康史/8回） 情報科学の基礎，インターネットとWeb，人工知能，他 （160 山口亨/7回） 情報化社会への展開，サイバーフィジカルシステム，他	オムニバス方式
基盤 科目群	自然科学 領域	エアフレームデザイン概論  航空力学にもとづいた，航空宇宙輸送機のエアフレームデザインに関する初歩について学ぶ．空気力学などから揚力と安定の原理を理解し，紙飛行機などの模型デザインの実習をもとに，実際の設計を試みたくえて，構造・制御などとの相反関係を理解する．実習したデザインを履修生で共有し，自分だけでは思い至らなかった他者の工夫を知ったうえで，世界的な学会などで提供されている航空宇宙機の研究開発に関する最新トピックを学び，今後の航空宇宙輸送のあり方について考える．	
基盤 科目群	健康 科学 領域	人間発達学  人間発達学とは、人間の一生、ヒトの受精から誕生・死に至る各時期を発達的に変化するという立場から、生物学的に、社会的に、心理学的に体系的かつ総合的な理解を促すものである。その各段階やその後の段階に関連して出現する様々な問題を考える際の基礎知識の習得や医療などの臨床場面で人を視るために必要不可欠な知識の習得を目標とする。  オムニバス方式（全15回） （349 藺牟田洋美/5回） 成人期、老年期発達学 他 （472 田中元基/10回） 新生児期、乳幼児期、学童期、青年期発達学 他	オムニバス方式
基盤 科目群	健康 科学 領域	医療統計学  統計学の基礎である母集団、標本、平均、分散等の知識を習得し、標本と母集団の関係を理解した上で、医療統計に必要な推定法や検定法の基礎について学ぶ。統計学が確率論を基礎として構築されており、これがどのように医療統計の実践につながるのかについて理解し、自ら基本的な医療統計の諸問題を解決できるようになるために、随時、医療統計に関する基本問題の演習を行いながら講義を進める。	
基盤 科目群	健康 科学 領域	移動の人間工学  人間の移動動作の基本と、移動障がい者（移動に障害を有する方々）の障害別に、特徴的な移動方法を紹介し、運動学の補助的基礎知識として、移動障がい者の身体の動きを観察するための知識の習得を目的とする。起居・移動という人間の基本動作について、身体の重心の移動を中心に理解し、身体の障害や運動能力の低下による移動の困難さ、歩行を補助する杖の使用、歩行に替わる方法として用いる車いすによる移動、また、視覚障がい者の移動方法などを取り上げて、多様な移動障がい者の特性を理解することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（法学部 法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤 科目 目群	健康 科学 領域  医療と情報	医療関係の学問を学ぶ学生として必要となる、情報に関する基礎知識を習得する。本授業を通じて、情報化が進んでいる現代の医療現場において必要とされる、ネットワークやデータ等、情報学の基礎知識を学び、守秘義務、情報倫理、医療の情報化を取り巻く課題等を理解した上で、それらを有効に活用することができる医療人の育成を目的とする。	
基盤 科目 目群	健康 科学 領域  保健医療概論	統一テーマである「保健・医療・福祉専門領域間の連携と協働」を中心に、現代社会における様々な保健医療福祉の課題を解決するための基盤としてチーム医療、チームケアの多角的な視点から講義をおこなう。  オムニバス方式（全15回） （171 安達久美子／3回） 助産師の役割 他 （179 大嶋伸雄／3回） 多職種連携教育 他 （182 渡邊賢／2回） 医療における説明と告知 他 （175 網本和／3回） 理学療法の専門性 他 （172 石井良和／2回） 遺伝性神経難病における妊娠・出産問題 他 （428 衣斐達／1回） 医療現場で遭遇する「死」について （451 金寿連／1回） 地域問題解決のための専門職連携	オムニバス方式
基盤 科目 目群	健康 科学 領域  リハビリテーション概論	リハビリテーションとは、身体的、精神的、かつまた社会的にもっとも適した機能水準の達成と社会的な環境の整備により個人の社会的参加を実現することを目指している。また、病気や障害を有しつつ新たな生活に適応するための学習過程と考えることもできる。本講義では、ゼロ歳から高齢者にわたる人間に生ずる“障害”に対する支援方法を、医学的リハビリテーションの視点、心理・社会的リハビリテーションの視点、地域リハビリテーションの視点、教育リハビリテーションの視点、職業リハビリテーション等々の視点から捉え、リハビリテーション概要を学ぶ。  オムニバス方式（全15回） （179 大嶋伸雄／7回） リハビリテーションの概念・評価・国際障害分類 他 （347 古川順光／8回） リハビリテーションと専門職 他	オムニバス方式
専門 教育 科目 目群	憲法一部	憲法学の諸領域のうちから、憲法総論及び人権論について講述する。また、憲法判例についても理解を深める。講義の概要は、憲法総論、人権総論、人権各論、人権保障、憲法解釈・法令解釈である。受講の便宜を図るために、プリントを配布する予定である。受講に際しては教養科目「日本国憲法」を受講済みであることが望ましい。なお、「憲法二部」は、「憲法一部」とあわせて憲法学の全体が理解できるので、履修を勧める。	
専門 教育 科目 目群	民法一部	民法第1編「総則」（第4章「物」を除く）及び第3編「債権」第5章「不法行為」を対象とする。前者は、講学上の「民法総則」であり、民法の全体を通じて適用される一般的通則的規定という、まず最初に理解が求められる分野を講義する。講義の後半では講学上の「不法行為」について講義をする。個々の条文の内容や解釈論に関する基礎的な知識の習得にも留意しつつ、単なる丸暗記にとどまることなく、背景にある原理・原則等についても触れることで、論理的思考力を養成することを目的及び目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	民法二部	民法第1編第4章（総則中、物に関する規定）、第2編第1章～第6章（物権中、物権総論・用益物権）及び第3編第2章～第4章（債権中、契約・事務管理・不当利得）を対象とし、関連する特別法も含め講述する。個々の条文の内容や解釈論に関する基礎的な知識の習得にも留意しつつ、単なる丸暗記にとどまることなく、背景にある原理・原則等についても触れることで、論理的思考力を養成することを目的及び目標とする。受講者が法学部の2年次以上であり、なおかつ「民法一部」を履修済みであることを前提に講義を進める。	
専門教育科目群	民法三部	民法第3編第1章（講学上の「債権総論」）及び第2編第7章～第10章（講学上の「担保物権」）を対象とし、関連する特別法も含め講述する。個々の条文の内容や解釈論に関する基礎的な知識の習得にも留意しつつ、単なる丸暗記にとどまることなく、背景にある原理・原則等についても触れることで、論理的思考力を養成することを目的及び目標とする。受講者が「民法一部」及び「民法二部」を履修済みであることを前提に講義を進める。	
専門教育科目群	刑法一部	具体的な犯罪行為を確定する作業である「犯罪論」のうち、犯罪一般に共通する成立要件等について考察する、講学上「刑法総論」と呼ばれる分野を対象とする。刑法の基礎理論、罪刑法定主義、構成要件論、違法性論、責任論に加え、可能な限り共犯論等も取り上げる。全学共通科目の「刑事法入門」を同時履修することが望ましい。毎回レジュメを配布してそれに従って講義する。刑法解釈における具体的な議論を通じ、法的思考力の養成を図ることを目的とする。	
専門教育科目群	商法一部	商法の各分野のうち、「会社法」（コーポレートガバナンス）を対象とする。この分野について、どのような制度・ルールが存在し、どのように機能しているかを理解することを主要な目的とする。このような基本的な理解を前提に、企業組織に関するルールのあり方について分析・検討する能力を獲得することも本講義の目的である。「民法一部」を受講済み、「民法二部」を受講済又は並行して受講していることを前提として講義を進める。	
専門教育科目群	民事訴訟法一部	民事訴訟手続のうち第一審の判決手続につき講義する。民事執行・倒産等の他の民事手続法や、複数請求訴訟・多数当事者訴訟及び上訴・再審は直接の対象とはしないが、講義範囲に関連する箇所は適宜補充的に取り扱う。主たる目的は民事訴訟法の基本的知識を体系的に習得することにあるが、民事手続法を学ぶことは、民法や商法で定められた実体法の権利を保障・実現するプロセスを学ぶことであり、民法の総合的な理解にもつながる。また、紛争解決手続の流れを知ること、異なる立場の対立を調整する手続的な考え方を身につけさせたい。	
専門教育科目群	刑事訴訟法	刑事訴訟法及び関連する特別法を対象とする。刑事手続制度を概観し、刑事訴訟法の解釈論について具体的な理解を得ると同時に、刑罰権実現のための手続を学ぶことで、刑事法全体を総合的に理解することを目的とする。さらに、手続の概要や基本的な制度趣旨を踏まえつつ、判例を素材に、具体的事実や論点把握力を向上させ、現実の刑事手続に関するより十全な理解を得ることも目的とする。「憲法一部」、「憲法二部」、「刑法一部」、及び「刑法二部」を履修済みであるか、同時履修することが望ましい。	
専門教育科目群	憲法二部	憲法学の諸領域のうち、憲法の統治機構論について、国家、主権、憲法、法等の基礎的な概念と関連付けつつ講義する。統治機構に関する基礎的な知識を身につけ、適切に憲法解釈を行う力を身につけるとともに、統治機構についての様々な正当化の論法について、それらが、それぞれどのようなものかを見方に立脚したものかを理解することを目標とする。また、憲法総論、人権論の基礎知識を持つ者に対し、統治機構論の知識・解釈能力を身につけさせ、憲法の全体系に関する基礎知識を完成させることも目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（法学部 法学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	民法四部	民法第4編「親族」及び第5編「相続」につき、これらに関連する特別法等をも含めた対象とする。最新の判例、問題を素材に、現代家族法を講義する。個々の条文の内容や解釈論に関する基礎的な知識の習得にも留意しつつ、単なる丸暗記にとどまることなく、背景にある原理・原則等についても触れることで、論理的思考力を養成することを目的及び目標とする。受講者が法学系の3年次以上であり、なおかつ「民法一部」、「民法二部」、「民法三部」の各科目を履修済みであるか同時履修中であることを前提に講義を進める。	
専門教育科目群	刑法二部	講学上の「刑法各論」を対象とする。個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪を中心に、時間が許す限り国家的法益に対する罪も講義対象し、判例・学説の検討、及び刑法解釈における具体的な議論を通じ、法的思考力の養成を図る。また、現代社会の鏡である犯罪を、より具体的に理解することを目標とするため、新聞記事や統計などの資料も活用する。講義に際しては、予習、復習のためのレジュメを配布する。受講者は、「刑法一部」を既に受講済みであるか、少なくとも同時履修していることを前提とする。	
専門教育科目群	商法二部	商法の各分野のうち、会社法（コーポレート・ファイナンス及び組織再編）、手形法・小切手法を対象とする。どのような制度・ルールが存在し、どのように機能しているかを理解することが主要な目的である。また、現在のルールについての基本的な理解を前提に、企業組織や決済・信用供与に関するルールのあり方について分析・検討する能力を獲得することも本講義の目的である。「民法一部」、「商法一部」を履修済みで、「民法二部」、「民法三部」を履修済みか並行して受講していることを前提に講義を行う。	
専門教育科目群	商法三部	商法の各分野のうち、商法総則・商行為法を対象とする。商人、商取引をめぐる法律関係を規整する商法（商法総則・商行為法）について、基本的体系的な理解を得ることを目的とする。もともと、学生にとって、これらは必ずしもイメージしやすい分野ではないため、抽象的な法制度の理解が容易でないとと思われる。そこで、商法上の諸制度の基本的な内容と機能を解説すると同時に、実際にあった裁判例又はあり得る設例を適宜取り上げ、諸制度をめぐる具体的な議論や紛争の事例を検討し、商法の基本的考え方の習得を目指す。	
専門教育科目群	民事訴訟法二部	広義の民事訴訟手続のうち、民事執行・担保権実行手続、民事保全手続及び倒産処理手続につき講義する。各手続の枠組や手続相互の関係はもとより、実体法が定める権利やその優先劣後関係、債権者平等の原則の手続的実現方法について学ぶことで、民事訴訟法さらには実体法も含めた民事法全体の総合的理解を深めることを目的とする。受講者が法学部の3年次以上であり、「民事訴訟法一部」及び「民法三部」を履修済み、または履修中であることを前提として講義を進める。	
専門教育科目群	行政法一部	いわゆる行政法総論として、行政作用法・行政手続法を対象とする。行政の担い手と市民との間に生ずる法関係を学説及び判例を参照しながら講義をすすめる。行政法学上の基本的概念や学説・判例を理解し、個別法を解釈する能力を獲得すると同時に、日々社会で生起する諸問題について、それを行政法の観点から分析し、その問題について一定の態度表明をすることが可能となる程度の知識と思考様式を身に付けることを目指す。	
専門教育科目群	行政法二部	いわゆる行政救済法を対象とする。関係する法制度に関して、学説・判例を取り上げながら解説し、「行政法一部」で私人と行政との法的関係について学んだことを踏まえ、行政活動によって私人の権利利益の侵害が生じた場合に、当該私人はどのようにして救済を得ることができるのか、という点について講義する。行政による権利利益の侵害に、私人は法的にどう対処すべきかの理解を得ると同時に、法を学ぶ者一般にとって、実体法を担保する法としての訴訟法を理解しておくことは有意義であり、それらを達成することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（法学部 法学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	財政法	広義の財政法のうち、租税法を除いた狭義の財政法を対象とし、国及び地方公共団体の財政活動について、法解釈論と制度設計論を交えながら講義する。財政法は、その固有領域に加えて、憲法、行政法、地方自治法、租税法、社会保障法等の複合領域からなるため、上記科目を履修してきた者にとってはこれまでの学習の集大成となる。他方、これらの科目を並行して履修している者にとっては同じ対象について異なる視点から理解を深めることになる。また、法理論的観点のみならず行政実務において重要と思われるトピックも適宜取り上げる。	
専門教育科目群	国際法	国際社会には、国内のような中央集権的な統治機構が存在しない。そのような社会において妥当する法とはどのような構造を有し、またそのような法は現実の世界においてどのように機能しているのだろうか。本講義では、まず国際法の歴史、国際法の法源、国際法の主体等のいわゆる総論部分について解説する。その上で、国家領域、海洋法、国際安全保障等の重要な各論分野について解説する。これらの学習を通じて、国際法の基本構造と特徴を理解し、日々生起する国際問題を法的な観点から考察する方法を習得することを目的とする。	
専門教育科目群	労働法	労働法の諸分野のうち、①個別的労働関係法、②集団的労働関係法を中心に講義を行う。主に、条文解釈、裁判例の分析、学説の検討を中心に行い、受講者の基本的理解を深め、企業組織で働く上で必要な知識の習得を目的とする。また、その際には、裁判例を参考に作成した事例問題を用いるなどして、実践的で理解しやすい講義を心がける。本講義を通じて、我が国の雇用社会の全体像を理解し、働くためのルールを習得させることとする。	
専門教育科目群	国際私法	外国法の適用制度を中心とした国際私法の基礎的な考え方や特徴的な方法論について、歴史的、比較法的な視点も踏まえながら概観し、また、国際民事訴訟法の基礎的な考え方についても概説する。以上を踏まえ、国際家族法や国際財産法の各論分野において連結政策や方法にどのような違いがあるかも検討する。国際私法の基礎的な構造や特有の考え方や法技術について理解するとともに、それらが個々の規定や具体的な事例の解釈にどう反映されているかが把握できるようになることを目標とする。	
専門教育科目群	刑事学	広義の刑事学として、犯罪の原因を解明し、犯罪対策の在り方を対象とする。犯罪はなぜ起きるのか、犯罪を予防・抑止するため、又は起きてしまった犯罪を検挙するためにどのような対策が行われているのか、そして、今後、いかなる対策が必要になるのかについて、実態を踏まえつつ、社会安全に関連する様々な思想や政策に係る基礎的な考え方を中心に解説する。刑事学の基礎的な概念について正しく理解した上で、自らもその一員である社会の安全・安心の在り方について、偏りのない視座を確立することを目標とする。	
専門教育科目群	法哲学	法の一般理論、正義論、現代法論などの、現代法哲学が取り組んでいる主要テーマ扱うが、その中でも、特に、現代正義論と呼ばれる分野についての概論を行う。講義を通じて、正義論分野に関する基礎的知識を習得し、また、応用的思考力を涵養することを目的とする。講義の各回で詳細な文献表を配布するので、それを用いた各自による発展的学習が期待される。それによって、受講者自身が法哲学的に思考することに意をもちたい。	
専門教育科目群	法社会学	法社会学の基礎理論及び応用研究について学習する。法社会学は、法を一つの社会システムとして、経験科学的に研究する学問である。法を経験科学的な観点から検討することは、法の作動過程を、延いては法解釈学という営為自体を反省的に捉え直す契機となり得る。法解釈学とは異なる、社会科学的・経験科学的な法システムの把握の方法を理解すること、また、それを通じて、法システムを多様な角度から眺められるようにすることが、本講義の目的である。	

授 業 科 目 の 概 要			
（法学部 法学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	経済法	経済法は、経済社会の高度化に伴って生成・発展してきた法分野である。極めて多数の経済関係法令から構成されているが、その中心と位置づけられているのが独占禁止法（競争秩序維持により経済運営を行おうとする競争法）であり、経済活動の基本法とされている。独占禁止法とその補助立法（下請法・景品表示法）を中心として、経済活動の法的規制の枠組みや実際の法の運用事例を検討する。競争法により実現される消費者の利益と事業者の利益が具体的にどのように確保されることになるのかについて理解を得ることを目的とする。	
専門教育科目群	知的財産法	著作権法、特許法、意匠法、商標法及び不正競争防止法等について、映像資料を用いながら、近時話題になった裁判例及び事例を素材として講義する。それによって、社会のあらゆる分野で応用できる法分野である知的財産法について、その体系的理解を習得させることを主たる目的とする。受講生は、前提科目として、民法、民事訴訟法、行政法を学んでいることが望ましい。	
専門教育科目群	情報法	情報に対する権利及び情報の取り扱いに関する法制、判例について解説する。 オムニバス方式（全30回） （6 木村草太/15回） 表現の自由総論、名誉権の保護、プライバシー・人格権 他 （28 西貝小名都/6回） メディアの特権、取材・報道の自由、放送規制 他 （18 門脇雄貴/9回） 税務調査と国税犯則調査との間での情報の流用、情報公開法に基づく情報公開 他	オムニバス方式
専門教育科目群	消費者法	現代経済社会における主要な課題である消費者問題の解決に向けて、消費者の権利確保という観点から「消費者法」と呼ばれる一群の法制度が形成されている。本講義では、消費者の「安全である権利」、「知る権利」及び「選ぶ権利」をそれぞれ具体化する主要な法令と判例を取り上げる。消費者基本法、消費者契約法、特定商取引法などをはじめとする主要な消費者関係法令や判例の検討を通じて、「消費者法」の基本的考え方を理解するとともに、消費者の権利実現に向けた具体的な問題の解決方法を学ぶことを目的とする。	
専門教育科目群	政治学	本講義は、政治学の理論やモデルを理解し、一見複雑に見える今日の政治現象を理論的に考察する能力を身につけることを目的とする。具体的には、第1に、民主主義システムにおける各政治アクターの具体的な行動を説明する理論について解説する。第2に、「イデオロギー」「権力」「国家」「民主主義」といった政治的な世界や世界観を説明するための重要な概念や理論を解説する。第3に、政策決定のメカニズムについて理論と実証の双方から検討する。	
専門教育科目群	行政学	本講義は、行政学の概念や理論を解説し、現代日本の行政をめぐる諸問題を多角的に考察する能力を身につけることを目的とする。まず、行政国家の歴史的な形成過程と現代行政学の理論展開について解説した後、内閣制度や公務員制度等、基幹的な行政制度について検討する。次いで、こうした制度の下で行われる政府組織の内部管理について、人事管理、予算編成等の観点から明らかにする。そして、政府が社会に対して働きかける政策過程・行政活動の実態を、具体例を交えて明らかにする。	
専門教育科目群	日本政治史	幕末から明治国家の形成、大正デモクラシーとワシントン体制、日中戦争、太平洋戦争を経て、戦後初期に至るまでの日本の国内政治と外交について、主要な出来事を取りあげて分析し、日本の近現代史の全体像を鳥瞰する。その際、「世界/アジアの中の日本」、「戦争と民主化」、「権力と民衆」、「内政と外交」などの視点を提示して解説する。日本近現代の政治外交史に関する基本的な知識を習得し、それを通じて物事の「大小を見分ける眼」をもてるようになることが、本講義の目標である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	西洋政治史	本講義では、ヨーロッパにおける議会制と自由主義の発達を主たるテーマとし、両者がどのように成立したか、どのような挑戦を受けたかを考察する。前半は、古典的自由主義の性格を検討する。イギリスが議会制の祖国とされ、その成立がモデルケースのように扱われる場合もあるが、本講義ではむしろフランス、ドイツ、イタリア等、各国の特色を強調し、いずれの国も独特の性格を持っていることを説明する。後半は、戦間期ヨーロッパにおける政治変動を扱う。革命や独裁政治といった内政だけでなく、国際関係についても分析する。	
専門教育科目群	現代日本政治	現代日本政治を理解するうえで必要となる、政治学および歴史的知識に関する概説を行う。本講義の目的は、受講者が、戦後日本政治について「理論的」かつ「実証的」に語るができるような知的基盤を得ることにある。そこで、戦後日本の政治体制、選挙制度、執政制度、国会、政党と政党システム、利益団体、地方政治、世論、投票行動、政治参加といったトピックをとりあげ、国際比較と歴史的経緯の視点から考察を行う。	
専門教育科目群	国際政治	国際政治学の諸概念、理論、歴史等について講義し、国際政治の特質と変容について、多角的に考察する。受講者が国際政治学の基本概念と分析枠組みを身に付け、現代の国際政治をみる目を養うことが、本講義の目的である。前半では、主権国家システム、権力、利益といった国際政治学の基本概念とその歴史的展開を学ぶ。後半では、グローバリゼーションと相互依存、レジーム、ガバナンスといった近年の国際政治の動向について、多角的に検討する。	
専門教育科目群	日本政治思想史	江戸・明治期の日本の政治思想を解説する。本講義ではまず、江戸期の日本列島に開花した、様々にして豊穡な諸思想について考える。次に、そうした諸思想が、300年近く安定的に持続した政治体制の崩壊、すなわち「開国」を導く諸条件としていかに機能したのかを考える。本講義では、この「開国」問題を軸に、それ以前（江戸期）とそれ以後（明治期）の政治思想の流れを概観する。講義を通じて、日本列島に暮らした人々の政治学的な思考、すなわち自己反省・自己省察の一端に触れ、現代への示唆を導き出すことを目標とする。	
専門教育科目群	西洋政治思想史	古典古代から近代に至るまでの、ヨーロッパ政治思想史の基本的な潮流を学んでもらうことがこの講義の基本方針である。本講義の目的は、今日の政治生活に対するヨーロッパの知的遺産の意義を理解するとともに、政治を単に現象面において捉えるのではなく、つねに歴史的かつ思想的に考える習慣を身につけてもらうことにある。政治思想史の対象と方法を明らかにした後、ポリスと古代普遍世界の政治、キリスト教的ゲルマン世界の普遍性と多元性、ルネサンスと宗教改革、国民国家の政治思想、の順に解説を行う。	
専門教育科目群	比較政治	現代アメリカの政治制度の特徴を説明するとともに、なぜアメリカにはアメリカ独特の制度があるのか、その制度の中で人々はどうのように行動しているのかについて、歴史と理論という2つの視点から講義を行う。まず、大統領制や議会内制度、選挙制度、司法制度等、政治と制度に関する解説を行った後、利益団体、メディア、市民社会といった政治アクターの変遷を明らかにする。そして、福祉や経済、性、人種、宗教、外交、安全保障等の政策争点をとりあげ、現代アメリカ政治を比較政治学の枠組みに照らして分析する。	
専門教育科目群	都市行政論	人口減少社会の到来を踏まえた地方創生の取組みが政府を挙げてはじまったなかで、あらためて「国と地方」「都市と地方」等の関係が問われている。本講義では、地方自治制度についてその基礎を学ぶとともに、都市とりわけ東京をはじめとする大都市のあり方を、国や都市以外の地方との関係を考慮しつつ、広く考察する。その際、制度学的観点はもちろん、政策的観点からのアプローチを、その基礎を習得しつつ、活用し、諸問題を検討する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(法学部 法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目群	法律学政治学特殊講義	法律学、政治学の通常の講義では対象にすることができない分野・事項や、時間的な関係等で十分に扱うことができない事項、さらには、社会の発展・変動等によって生じている新たな法律学上・政治学上の諸問題などについて、それらを特に対象として随時開講する。テーマは、担当教員の判断により適宜設定する。設定テーマについての講義を通じて、受講生が、法律学・政治学に関して十全な理解を得ることとともに、その知的好奇心に応えることを目的とする。	
専門教育科目群	法律学政治学演習	法律学、政治学の諸分野に関して、講義により得られた理解を前提に、演習形式により、報告・討論・グループワーク・文献購読・調査研究などを通じて、より深い分析・考察を行い、より専門的な理解を得ることを目的とする。対象とするテーマ、受講の前提条件等は、担当教員の判断により適宜設定する。演習参加者による能動的な学修を促し、法律学・政治学に関するより高度な理解を得るだけでなく、論理的思考力、表現力等の能力を高めることも目的とする。	
専門教育科目群	インターンシップ	実社会とのつながりをテーマにした教育の一環として、学生が、さまざまな課題を抱える官公庁の現場で体験学習することで、問題意識を醸成し、課題解決能力を向上させることを目的とする。実習先の選定は、キャリア支援課の紹介によるか、学生自ら行うこととする。学生は、事前にキャリア支援課に申請書を提出し、実習時には、日誌を作成し、終了時には実習報告書を提出する。インターンシップ先は学生の「実習所見票」をキャリア支援課に提出する。実習終了後、上記日誌、成果報告書、所見に基づき、担当教員が単位認定を行う。	
専門教育科目群	法律学卒業論文	法律学の諸分野における卒業論文をまとめるための指導を行う。受講生は、自ら設定した卒業研究のテーマについて、担当教員の指導・助言、所属する演習でのゼミ生との討論などを通じて、研究テーマに関する課題を見出し、分析し、検討を加えながら、自らの考察を深め、卒業論文としてまとめる。また、研究を進める過程で、論理的思考力、リサーチリテラシー、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などをさらに向上させる。	
専門教育科目群	政治学卒業論文	自ら設定した政治学に関わる研究テーマについて、担当教員の指導・助言から見出された課題を解決しながら考察を深め、卒業論文として集大成する。担当教員の指導・助言に基づき、研究を進める過程で、論理的思考力、リサーチリテラシー、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上を図ることを目標とする。これらの能力が、完成された論文に反映されているかどうかを、卒業論文としての認定要件とする。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

公立大学法人首都大学東京 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
首都大学東京				首都大学東京				
都市教養学部		3年次						
都市教養学科	900	8	3,616	0	0	0		平成30年4月学生募集停止 学部の設置(届出)
				<u>人文社会学部</u>				
				人間社会学科				
				110	-	440		
				人文学科				
				90	-	360		
				<u>法学部</u>				
				法学科				
				200	-	800		学部の設置(届出)
				<u>経済経営学部</u>				
				経済経営学科				
				200	-	800		学部の設置(届出)
				<u>理学部</u>				
				数理科学科				
				45	-	180		
				物理学科				
				47	-	188		
				化学科				
				48	-	192		
				生命科学科				
				60	-	240		
都市環境学部				<u>都市環境学部</u>				
都市環境学科	200		800	0	-	0		平成30年4月学生募集停止
				地理環境学科				
				30	-	120		学科の設置(学則変更)
				都市基盤環境学科				
				50	-	200		学科の設置(学則変更)
				建築学科				
				50	-	200		学科の設置(学則変更)
				環境応用化学科				
				60	-	240		学科の設置(学則変更)
				観光科学科				
				30	-	120		学科の設置(学則変更)
				都市政策科学科				
				35	-	140		学科の設置(学則変更)
システムデザイン学部				<u>システムデザイン学部</u>				
システムデザイン学科	270		1,080	0	-	0		平成30年4月学生募集停止
				情報科学科				
				50	-	200		学科の設置(学則変更)
				電子情報システム工学科				
				85	<sup>3年次</sup> 4	348		学科の設置(学則変更)
				機械システム工学科				
				90	<sup>3年次</sup> 4	368		学科の設置(学則変更)
				航空宇宙システム工学科				
				45	-	180		学科の設置(学則変更)
				インダストリアルアート学科				
				50	-	200		学科の設置(学則変更)
健康福祉学部				<u>健康福祉学部</u>				
看護学科	80	-	320	80	-	320		
理学療法学科	40	-	160	35	-	140		定員変更(△5)
作業療法学科	40	-	160	40	-	160		
放射線学科	40	-	160	40	-	160		
計	1,570	8	6,296	1,570	8	6,296		
専攻科				<u>専攻科</u>				
助産学専攻科	10	-	10	10	-	10		
計	10	-	10	10	-	10		
首都大学東京大学院				首都大学東京大学院				
<u>人文科学研究科</u>				<u>人文科学研究科</u>				
社会行動学専攻(M)	14	-	28	14	-	28		
社会行動学専攻(D)	10	-	30	10	-	30		
人間科学専攻(M)	17	-	34	17	-	34		
人間科学専攻(D)	6	-	18	6	-	18		
文化基礎論専攻(M)	13	-	26	13	-	26		
文化基礎論専攻(D)	5	-	15	5	-	15		
文化関係論専攻(M)	5	-	10	5	-	10		
文化関係論専攻(D)	4	-	12	4	-	12		

公立大学法人首都大学東京 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
社会科学部研究科								平成30年4月学生募集停止
法学政治学専攻(M)	6	-	12	0	-	0		
法学政治学専攻(D)	4	-	12	0	-	0		
法曹養成専攻(専門職学位課程)	52	-	156	0	-	0		
経営学専攻(M)	40	-	80	0	-	0		
経営学専攻(D)	5	-	15	0	-	0		
				法学政治学研究科				研究科の設置(届出)
				法学政治学専攻(M)	6	-	12	
				法学政治学専攻(D)	4	-	12	
				法曹養成専攻(専門職学位課程)	52	-	156	
				経営学研究科				研究科の設置(届出)
				経営学専攻(M)	50	-	100	
				経営学専攻(D)	5	-	15	
理工学研究科								平成30年4月学生募集停止
数理情報科学専攻(M)	25	-	50	0	-	0		
数理情報科学専攻(D)	8	-	24	0	-	0		
物理学専攻(M)	33	-	66	0	-	0		
物理学専攻(D)	9	-	27	0	-	0		
分子物質化学専攻(M)	33	-	66	0	-	0		
分子物質化学専攻(D)	9	-	27	0	-	0		
生命科学専攻(M)	40	-	80	0	-	0		
生命科学専攻(D)	16	-	48	0	-	0		
電気電子工学専攻(M)	32	-	64	0	-	0		
電気電子工学専攻(D)	6	-	18	0	-	0		
機械工学専攻(M)	32	-	64	0	-	0		
機械工学専攻(D)	6	-	18	0	-	0		
				理学研究科				研究科の設置(届出)
				数理学専攻(M)	25	-	50	
				数理学専攻(D)	8	-	24	
				物理学専攻(M)	35	-	70	
				物理学専攻(D)	10	-	30	
				化学専攻(M)	35	-	70	
				化学専攻(D)	9	-	27	
				生命科学専攻(M)	40	-	80	
				生命科学専攻(D)	16	-	48	
都市環境科学研究科				都市環境科学研究科				
都市環境科学専攻(M)	163	-	326	都市環境科学専攻(M)	165	-	330	定員変更(2)
都市環境科学専攻(D)	31	-	93	都市環境科学専攻(D)	29	-	87	定員変更(△2)
システムデザイン研究科				システムデザイン研究科				
システムデザイン専攻(M)	172	-	344	システムデザイン専攻(M)	215	-	430	定員変更(43)
システムデザイン専攻(D)	24	-	72	システムデザイン専攻(D)	26	-	78	定員変更(2)
人間健康科学研究科				人間健康科学研究科				
人間健康科学専攻(M)	50	-	100	人間健康科学専攻(M)	70	-	140	定員変更(20)
人間健康科学専攻(D)	22	-	66	人間健康科学専攻(D)	25	-	75	定員変更(3)
計	892	-	2001	計	899	-	2007	

公立大学法人首都大学東京 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
産業技術大学院大学				産業技術大学院大学				
産業技術研究科				産業技術研究科				
情報アーキテクチャ専攻(専門職学位)	50	-	100	情報アーキテクチャ専攻(専門職学位)	50	-	100	
創造技術専攻(専門職学位)	50	-	100	創造技術専攻(専門職学位)	50	-	100	
計	100	-	200	計	100	-	200	
東京都立産業技術高等専門学校				東京都立産業技術高等専門学校				
ものづくり工学科				ものづくり工学科				
計	320	-	1600	計	320	-	1600	
専攻科				専攻科				
創造工学専攻	32	-	64	創造工学専攻	32	-	64	
計	32	-	64	計	32	-	64	